

宗方小太郎日記，明治34～35年

大里浩秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に「上海歴史研究所所蔵宗方小太郎資料について」を載せ、そこに宗方の明治21年の日記の一部を収録し、No. 40 に明治22～25年、No. 41 に26～29年、No. 44 に30～31年、No. 46 に32～33年の日記を載せた。今号ではその続きとして、明治34～35年の宗方の手書きの日記を活字に起こすとともに、解題をつけることにする。

前回までと同じであるが、お断りすべきことをいくつか記す。解読できなかった文字は今回もあり、文中では□で示した。また、日記中の人名や地名に記載ミスがある場合は、直さずにそのままにした。さらに、原文のカタカナはひらがなに改め漢字の旧字体は新字体に改め、適宜句読点を加えたが、日本の人名の漢字は原文のままにした。私の解題中の原文の扱いも同様である。日記の解読と入力作業は、本学中国言語文化修士課程修了の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 明治34年1月から12月までの日記

明治34（1901）年の日記は、1年を通した一綴じと、4月3日から9日までの「蘇州、湖州、杭州三府舟遊日誌」、および5月18日から24日までの「杭州遊日誌」から成っている。それらをその順に並べ、そこに書かれているいくつかの動きを取り上げてコメントする。

この年の正月は、前年の11月19日から滞在している漢口で迎えた。この時の漢口の動きで注目されるものの1つは、1月17日の商船会社の集會に漢口在住の日本人が全員集まったと書いている点である。何でもない出来事に違いないが、このような動きをつないでいけば、当時の記録がほとんど残っていない漢口在住日本人の様子が多少なりとも分かってくるのではないかと考える。もう1つは、3月4日を皮切りに仲間を誘って鳥を狙った銃獵を開始し、6日、13日さらに上海に移ってからも行っている点である。かなりの凝り性と見え、この年の動きをさらに追っていくと、10月から12月にかけて上海と漢口で17回も獵に出かけていることが分かり、仕事の緊張を解きほぐすためだけではないほどの熱の入れようである。

3月22日に上海に着くと、同文滬報館に泊っている。そこは東亜同文会の事業として明治32年から井手三郎を社長として『同文滬報』を発行、33年12月には井手個人の経営に移って継続されていた。井手は熊本出身で漢口樂善堂時代以来の同志である。そして、着いたその日のうちに旧知の姚文藻、文廷式、汪康年と会い、その後も彼ら全員とあるいはそのうちの1人と何度か会い、5月25日には彼ら3人の他に鄭官応、趙仲宣も一緒に会っている。また4月初めには、福建の王孝繩、孫葆桂、王仁東らと数回会う等、数日を置かずには中国人と顔を合わせていることが分かる。

5月末まで上海に滞在した間の注目すべき記述を2つあげる。1つは、4月10日に香港の陳少白に山田良政の「下落を問ふ」と書いている点である。山田は33年10月に孫文が指導した惠州蜂起に参加し

て戦死した人物として知られているが、遺体が見つからないままどんな経緯で亡くなったかは不明のままになっていた。以前山田と親しく往来していた宗方としては、孫文の同志で興中会会員の陳にその辺の事情を問い合わせたものであろう。それに対する陳の返事があったかは日記には記していないが、7月9日に山田の弟純三郎からの手紙が届いている。なお、山田が蜂起の際清国軍に捕まって処刑されたことは、1918年になって処刑した人物が孫文に打ち明けたことで判明した（武井義和『孫文を支えた日本人、山田良政・純三郎兄弟』、愛知大学東亜同文書院記念センターブックレット7）。もう1つは、東亜同文書院が上海で開院される前後の動きを記している点である。3月30日に「高昌廟の同文書院を一覧」と書き、5月6日も同様の書き方をしているのは、同文書院の建設状況や開院に向けた準備の具合を確認する動きであろうし、5月8日には根津一ら職員の見学で生徒80名が上海に到着するのを出迎え、さらに26日の開院式を行った様子を伝えている。

さて、6月3日に長崎に着いて10月までは熊本に滞在し、その間に義和団事件のその後にに関する情報を整理したようであり、7月末に「三十四年六月以降清国雑事」というタイトルをつけて、その後の西欧列強による利権拡大の動きや前年来西安に留まっている西太后を取り巻く清朝高官たちの動き等を書き綴っている。そして10月23日にはまた上海に行き、汪康年、姚文藻、文廷式らに会い、11月11日に漢口に着くと李泉溪、周天順、楊子栓と会い、11月30日には再度上海に移動して、そのままその年を終えた。

2つの旅日記に触れる。4月3日から9日までは、白岩龍平らを誘い船を仕立てて獵をしつつ蘇州、湖州、杭州を巡った様子を記しているが、3地、とくに租界のある蘇州、杭州で出会った日本人について書いているのは貴重である。また、同じく船を仕立てた5月18日から24日の杭州小旅行は、東亜同文書院の開院式に出席するために上海に来た長岡護美東亜同文会副会長にお供してのもので、日本租界が置かれた拱宸橋で下船、そこにある大東汽船会社で入浴した後、籠で杭州城内に近い日本領事館に行きそこに泊って、西湖等を見物するとともに当地在留の日本人に会っている。

ここで入金状況について見ると、1月、2月には東亜同文会から各300円が入金された。これによって漢口支部経費として3月までひと月150円を受け取っていたことが分かり、その後も5月までは同様の額を受け取っていたと思われるが、6月に帰国してからは漢口在住の岡幸三郎からひと月70円の支部長手当てを受け取っている。また、海軍囑託の手当ては4月に300円、8月に291円、10月に400円（いずれも3カ月分）が送られていることからすると、この時点で毎月一定額をもらっていたわけではないことがわかる。

最後に、明治34年中に書いた海軍あて報告の号数と日付を日記から拾い出すと以下ようになる。先に明治32年分から採ったやり方で、『宗方小太郎文書』中に収録されている報告類と照らし合わせて、そこには日付けが書かれていないもの、あるいは収録されていないものについては、日付けあるいは号数のそばに*印をつけることとする。

1月12日—第94号、第95号、2月8日—第96号、第97号、2月15日—第98号、3月16日—*第100号、4月20日—第101号、第102号、日記では「報告を發す」とのみ記す、4月24日—第104号、日記では「發信す」とのみ記す、10月26日—第105号、日記では「發信す」とのみ記す、11月2日—「報告を發す」とのみ記す、11月23日—第108号、日記では「報告書を發す」とのみ記す、12月11日—第109号、12月11日—第109号、12月17日—*第110号、*第111号。なお、上海社会科学院歴史研究所所蔵資料によると、報告第100号のタイトルは「清国将来の運命」であり、11月2日に書いた報告は第106号で、そのタイトルは「兩宮回鑾の件」であり、11月23日に報告第107号が書かれ、そのタイトルは「清国の政況」である。

明治三十四年正月起
日誌

正月元旦 快晴。晴気可人。詰朝盥嗽、礼服を着け領事館に至り、両陛下の御真影を拝し、館内に於て祝杯を挙げ、去て知人を歴訪し新禧を賀す。午後大原武慶、岡本監輔、三輪高三郎、中畑栄、神保濤二郎、福島豊太郎、白岩、浅井、宝妻、大瀧八郎、木野村政徳、中野太郎、河瀬儀太郎、吉田永二郎、美代清彦、峰村喜蔵、野村、宋宝康、楊開甲、朱克柔、岡部等来りて正を賀す。過飲の爲め頭痛を催ふし、五時禱に就く。

元旦

他郷十又八春風、花若去年人不同、方寸頼留不朽物、従容自得軋坤中。

近衛公、根津、佐々、宇都宮、小山、齊藤力三郎、鳥居、土屋、林、狩野、岡本、池田、田鍋、同文会、安原、内田岳父、徳久、伊瀬地、河口、田中、米原、内藤、山田、毛利、宇野、安達、平山、岡崎、板井、門池、小早川、久米、井手、小田桐、白岩、牧、渡辺、香月、宮坂、遠藤、中村、西巻、沢村、小室、小田、吉田、白須、深津、天野、松村、松平、田結、奥村、高橋、山内、守田、篠崎等に年賀状を發す。

正月二日 雨。橘三郎、中西、劉揚夫、王承恩、原、領事、二橋等来りて正を賀す。五時領事と福島の処に至り晩食す。

正月三日 夜来雷鳴、暴雨。

正月四日 陰天。東京中村静嘉氏に改正暗号電報符号を郵送す。夜東肥橘の処に至り会食す。石塚、川野の下申を送る。川野に托し上海井手に滬報代十元を送る。又た中知に二十元を送り縮緬一疋を購ひ、井手に托し熊本に転送を依頼す。大冶松田、上海秦、小林、福州桑田の年賀状到る。

正月五日 晴天。午前橘、原等数人と武昌に至り、河瀬、柳原、神保、大原、木野村、美代、峯村、中西、中野等を歴訪し、大原の処にて中食し、四時帰る。上海御幡、山根の年賀状到る。留守中楊開甲、李泉溪、神坂政治等来訪せりと云ふ。

正月六日 晴天。上海山根、御幡、秦、小林、大冶松田等に返信す。熊本留守宅、村上正隆の信並に東京同文会より十一、十二両月分経費三百円送来。村山、熊本留守宅、武藤虎太に発信す。夜楊開甲、橘三郎、牛島、宝妻等来談。

正月七日 晴天。朝河野久太郎来訪、暫く寄寓を請ふ。之を諾す。午後熊本留守宅に金五十円、岡幸七郎に金十円（朝日新聞社より送来せるもの）を郵便為替にて送る。中西専和、盛某、中村の信到る。中西に復す。郵便局に至り二橋等と小談、帰途領事館に抵り三輪、中畑、領事を訪ひ帰る。夜原、福島、橘来訪。

正月八日 晴天。東肥洋行より金百五十円を受取る。夜東肥を訪ふ。

正月九日 陰。午後領事、橘来訪。夜大瀧八郎宅の会に赴き、一時帰る。

正月十日 陰天。午後岡野増次郎、中畑栄、橘三郎等来訪、之を留て晩餐を饗す。田野橘治、田鍋安之助、亀雄、牛島貫吾、白岩龍平、小島範一郎、勝木恒喜、篠原邦威の信到る。

正月十一日 陰天。午前李泉溪来訪。夜橘、福島を招き河野と四人会食す。福州岡田兼次郎の信到る。

正月十二日 陰天。軍令部に第九十四、九十五両号報告を發す。小島範一、牛島、田野及び福州岡田、桑田、森永、豊島、前田、橋本、平原等に賀新の名刺を郵寄す。岡幸七郎、井口忠、中知、小田、莊村、瀬良、片山、松村等の年賀状到る。午後郵便局に至り発信し、領事館に抵る。重慶領事山崎桂在焉、本日来着せりと云ふ。瀬川、河野と大智門外一里余の郊外に散歩し、五時領事館に帰り、領事、山崎、神保、二橋、三輪、中畑、岡野以下数人と会食し、十時帰る。

正月十三日 陰天。日曜日。午後橘、河野と日本租界に散歩す。夜胡秉忠外一人来訪。重慶井戸川辰三

の信到る。

正月十四日 陰天。劉彝卿，周天順来訪。熊本留守宅の信並に井口，緒方，岡，篠崎，林安繁，工藤常，野中，井上，内田英治，竹下又平，上山，松本正順，平山，友枝，河北，嶋田，松本亀太郎，岡次郎，藤森，佐々友房，西巻，曾根原，大原，神津，香月，渡辺，門池，津村，吉岡，吉田，根岸，辻等の年賀状到る。

正月十五日 雨。午後牛島正巳来り別を告ぐ。明日より沙市に赴くと云ふ。夜山崎桂一行四人の重慶行を一品香に餞す。八時散ず。大元丸に至り寛談，十時別を告て帰る。山崎に托し重慶井戸川辰三に復書す。

正月十六日 雨。橘三郎，福島豊太郎来訪。

正月十七日 雪。原福之助来訪。晩商船会社の集會に赴く。漢口の在留人皆來會，十二時散ず。

正月十八日 陰。寒威料峭。午前白井某来訪。上海井手，土井，深澤，御幡，東京同文會，井上，久米，大内，熊本上田の信到る。夜東肥を訪ふ。

正月十九日 雪。寒氣甚。上海井手，土井，日本大内，上田等に復書す。同文會に十一月，十二月支部費の領收証を郵寄す。午後岡本監輔翁に大瀧八郎の処に會し小飲，寛談，晩食後其の上海行を大利丸に送り，歸途商船会社に至り，十一時歸る。

正月二十日 陰。日曜日。寒氣甚嚴。居留地一帶の樹木氷雪の為に壓摧せらるゝ者十の八九，道路，家屋氷凍，玻璃を以て築くが如し。如此光景生來未だ見ざる所なり。橘，河野久と洋街を巡覽し，去て領事館に至り瀬川を誘ひ雪中を散歩し，東肥に至り晩食す。

正月二十一日 半晴。鳥居赫雄，狩野直喜，井手，河口，田中，井上俊三，米良，藤本，堀部及び留守宅の信到る。海軍々令部より二月より四月に至る三ヶ月分の手当金を送り來る。

正月二十二日 雨天。終日在家。康岐山来訪。

正月二十三日 雪。終日在家。片山敏彦，小山秋作，真藤義雄等の信到る。橘三郎来訪。

正月二十四日 雪。山崎，前原二人の送別會費八円四角を東肥に渡す。夜鴨を煮て河野，原，福島等と會食す。是夜河野生上海に歸る。

正月二十五日 飛雪紛々。午前橘三郎，原来訪。夜東肥を訪ふ。

正月二十六日 雨。午前原の処に至り，中食後歸る。熊本留守宅の信並に土屋，齊藤力三郎，内藤虎次郎，中村静嘉，岡の信到る。夜福島来訪。

正月二十七日 積陰。正午前原巖太郎の招邀に一品香に赴く。歸途東肥に至り，九時歸る。雨。

正月二十八日 雨。朝篠原邦威來着。内田岳父，緒方二三，橋元祐藏，成田鍊，鳥居赫雄，市原源次郎，田結柳三郎，山崎桂，牛嶋正巳の信到る。岡本監輔の信一封篠原より遞交す。橘三郎，原，福島来訪。

正月二十九日 陰。熊本留守宅，佐伯間，井手三郎に発信す。

正月三十日 雨。上海汪康年母堂の訃に接し，香典として金拾円を郵送す。外に北京市原，米良，伊東，成田及び内藤虎次郎と真藤義雄，橋元，堀部，牛島等に復書す。午後領事館に至る。原等の処に晩食す。

正月三十一日 雨。上海山根の詩信到る。晩浅井，宝妻両生来訪。

二月一日 陰。鳥居赫雄，土屋員安，山根に復書す。二，三两月分衛生費六元を領事館に送る。原，福島を招き晩食す。

二月二日 陰。午後松田満雄来訪。浅井亦來。晩瀬川領事来訪。松田，瀬川を留て晩食す。橘三郎来訪。

二月三日 半晴。日曜日。神保，三輪，中畑来訪。濃姓來談，少談即去る。岡，久米，松平，林市藏，平山等の信到る。内藤湖南よりその著禹城鴻爪記一部を送り來る。夜東肥を訪ふ。大坂緒方，台湾七

里恭の信に接す。

二月四日 晴天。朝尹福昌来訪。同文会より正、二両月分支部費三百元送り来る。夜前原巖太郎夫婦の帰国を大亨丸に送り、帰途商船会社に立寄り、十時帰る。

二月五日 快晴。午後橘、原と関帝廟の骨董舗に至り、密刻雲龍の端硯一方並に古銅茶釜、磁器等を購入。値九円。東肥にて晩食して、十時帰る。

二月六日 晴天。午前福島来訪。大坂緒方二三、台湾七里恭三郎に返書す。午後六時瀬川領事の処に至り晩餐し、談話十時に及で帰る。

二月七日 晴天。夜東肥を訪ふ。

二月八日 晴。軍令部に第九十六、七両号報告を發す。外に同文会、岡等に発信す。楊子荃来訪。

二月九日 晴。午前武昌に至り木野村、柳原等の処に中食し、大原、平尾等を訪ひ、三時帰る。留守中李泉溪来訪せりと云ふ。

二月十日 晴。午前中畑、原、福島来訪、原等を留て中食す。熊本留守宅、岡幸七、白須直、岡野、辻武雄の信到る。橘来訪。東肥に至り晩食す。可徳朝三等在り、昨日来着せりと云ふ。

二月十一日 晴天。是紀元佳節たり。午前領事館に至り聖上の御真影を拝し、館内にて祝杯を挙げ、午後帰る。橘三郎、角田隆郎、原、福島等来訪。夜商船会社に至り閑談、十一時帰る。上海井手三郎の信到る。

二月十二日 晴。熊本留守宅、上海井手三郎、東京辻武雄、大坂内藤湖南等に復書す。午後李泉溪、楊子荃来訪。

二月十三日 晴。午後橘三郎来訪、之を留て晩食す。夜福島来談。

二月十四日 晴。晚可徳一行の帰国を送る。陝西省飢饉救恤金五円を出す。

二月十五日 快晴。軍令部に第九十八号報告を發す。楊子荃、福島来訪。

二月十六日 晴。午後松本来訪。橘三郎亦来。夜東肥を訪ふ。

二月十七日 晴。橘三郎、原、福島等を招き会食す。

二月十八日 晴。上海井手、東京岡の信到る。井手は本月二十四日帰国に決せりと云ふ。是日陰月十二月尽日たり。午後領事館に至り領事を訪ひ、共に出て郊外に散歩し、五時帰る。領事及び福島、原来訪。

二月十九日 晴。是日清曆正月元旦たり。午前商船会社、東肥諸人と武昌大原の処に会し遊興、暮に及で帰る。東肥にて晩食し、九時帰寓。

二月二十日 陰。午前橘三郎、王承恩、劉惕夫等来訪。晚東肥に至る。是日熊本留守宅の信到る。

二月二十一日 晴天。晚福島の処にて会食す。上海井手に電報し篠原下申期を報ず。

二月二十二日 陰。午後中知、福島来訪。兩人を留て晩食す。

二月二十三日 陰。白石生来訪。晚領事の招邀に赴く。

二月二十四日 晴。午後橘来訪、武昌大原の女病死せるを告ぐ。此の両三日風邪の気味あり。曾我兄弟の伝を読む。泣を飲むもの数回。

二月二十五日 晴。朝武昌に大原を訪ひ、其の幼女の死を吊す。是日十二時其の長女又た病歿。午後四時辞帰。東肥にて晩餐して帰る。牛莊松倉、東京岡次郎の信到る。

二月二十六日 晴。

二月二十七日 風勢甚大。午前江を度りて武昌に至り、大原氏二女の葬を洪山の宝通寺に送る。帰途大原の処に休息し、五時小蒸汽船にて漢口に回り、大利丸に至り篠原邦威の上海に下るを送り金四十円を与ふ。是日元兇処分の上諭に接す。上海井手、熊本藤本、東京久米徳太郎の信到る。

二月二十八日 晴。是日先考の忌辰たり。朝来吃素謹慎。寶妻、楊子荃等来訪。宝妻に托し同文会よりの送金を銀行より受取る。是日漢口郵便局に金五十円を預く。通帳番号「もて〇〇〇一七号」。

三月一日 陰。軍令部、同文会、井手、緒方、藤本等に発信す。金五十円を郵便局に預く。福島来訪。

三月二日 晴。土曜日。午前金五十円を郵便局に預く。午後領事を訪ひ、共に出て郊外十清里の地に散策す。春色頓に動き、草樹漸く青矣。五時領事館に帰り瀬川の処にて神保、三輪、松本諸人と会食し、十時辞帰。

三月三日 晴天。日曜日。午前原来訪。午後橘来訪。東肥に至り晩食す。王承恩来訪。

三月四日 陰天。詰朝東肥に至り、橘等と武昌城外に銃猟し鳩二羽、小鳥一羽を得、正午帰る。緒方二三、東亜同文会、林田道利、岡幸七郎の信到る。留守中柳原又熊、楊子荃、張振燠等来訪、張より芸林珍賞一軸を贈る。領事館古谷帰来、鮭一尾を贈る。

三月五日 晴天、夜に入て雨。東亜同文会及び上海岡本監輔翁に復書す。午後楊子荃、張振燠兄弟、劉玉塔、神保軍医等来訪。四時領事の晩餐会に赴く。会者、鉄政局総弁盛、提調李一琴、翻訳章姓及び角田、橘、三輪、古谷、二橋及予なり。十時散帰。雨。

三月六日 陰天。午後楊子荃、周衡齋来訪。午後橘来訪。三時半共に武昌に至り銃猟す。予小鳥一羽鳩六羽を獲、橘鳩三羽を得たり。六時東肥に帰り、角田を招て会食す。

三月七日 晴。午後宝妻、浅井、神保来訪。

三月八日 晴。詰朝江干に至り岡幸七郎を迎ふ。西田龍太、山根虎之助、牧卷次郎、篠原、橋本齋次郎等の信到る。原来訪。晩橘来訪。食後共に出て東肥に至り、十時帰る。

三月九日 雨天。午後瀬川領事来訪。東京根津一、西田良知、亀雄の信到る。根津、西田に復書す。晩瀬川、原等を招き晩食す。東京同文会より三月分支部費送来。

三月十日 陰天。風大、春寒肌を刺す。亀雄に金三十円を送り、其の盜難の窮を救ふ。熊本留守宅に発信す。熊本井手三郎に発信。大阪鳥居に致書す。

三月十一日 晴。

三月十二日 晴。午後原、岡と出て洋街を散歩し、帰途領事を訪ひ、五時帰る。

三月十三日 快晴、春色如海。午後橘と江を渡りて武昌に至り柳原、木野村の処に小憩し、橘と城外に猟し、鳩二羽、小鳥四羽を獲て帰る。

三月十四日 晴。上海篠原、牛島列に発信す。晌午橘と漢陽鉄政局に至り提調李一琴を訪ひ、三時帰る。

三月十五日 晴天。夜福島、浅井、宝妻等来訪。

三月十六日 晴。土曜日。軍令部に第百号報告を發す。外に同文会に支部費領収証を郵送す。重慶井戸川辰三の信到る。午後領事館の会議に赴く。橘、柳原を誘ひ帰り晩餐を共にす。夜東肥に至り入浴す。沙市白石生の信到る。

三月十七日 晴天。沙市白石に復書す。是日康岐山より中餐の案内有りしも、武昌行の先約有りしを以て之を辞す。八時岡、橘、柳原と武昌に至り、中食後柳原、橘、岡、野村等と城外に会猟し、六時武備学堂に帰り宿す。

三月十八日 晴。午前七時武昌諸子と江を渡り久米徳太郎の来漢を迎ふ。是日木野村政徳氏より梅花書□の画一幅を贈らる。熊本留守宅、同文会、河野久太郎、武藤虎太の信到る。熊本留守宅に返書す。重慶井戸川辰三に復書す。夜東肥諸人、商船会社香坂、米山船長等を一品香に招き支那料理を饗す。

三月十九日 晴。午前楊子荃、李泉溪来り別る。午後領事館に至り別を叙す。晩橘、原、福島、岡等と会食す。是夜余大利丸にて上海に下らんとす。六時寓所を發し船に上る。橘、岡、原、福島、香坂、吉山、瀬川、松本、三輪、古谷、神保、中畑、浅井、宝妻等来送る。八時半開船。是夜熱甚。

三月二十日 小雨、陰霾天を蔽ふ。午前十一時九江を過ぐ。有詩、
淪落天涯鬢欲絲、関山千里夢中思、潯陽江上霏々雨、春意悲於秋意悲。
英国宣教師男女四人と同船す。長きは二十年、短きも七八年支那内地に在て布教に従事せしもの、皆

支那語に精通せり。

三月二十一日 微雨。春寒料峭。午前過烏江，有詩。
拔山盖世勢無双，垓下悲歌恨满腔，識取英雄其面目，敗余不再渡烏江。
正午金陵を過ぐ。午後三時半鎮江に達す。四時開船。

三月二十二日 雨。午前十一時上海に達し，滬報館に投ず。

三月二十三日 朝雨，午晴。午前同文書院を訪ひ，去て文廷式，佐原等を敲き，午後姚文藻を訪ふ，在らず。去て篠崎，白岩，香月等を訪ひ帰る。白岩，宮坂，松原音藏，西田龍太，篠崎，上田等来訪。夜牧卷次郎来訪。

三月二十四日 晴。午前汪康年，姚文藻，中村，盛等来訪。午後澤村繁太郎来訪。三時中村等と出て，軍艦宮古に至り遠藤司令官，八代艦長を訪ひ，帰途領事館に深澤，白須を敲き，去て御幡雅文，白岩龍平を訪ひ帰る。夜佐原篤介，松原温三来訪。

三月二十五日 晴天。午後上田並に姚の三男来訪。正金銀行に至り三百十二円を受取り，更に当座預金と為す。館中の諸氏と郊外に散歩す。趙茫蕃来訪。明日を以て期限と為し露国より迫りし満洲密約の批准は清国政府に於て拒絶する事に決せりと電報，本日西安行在所より当地盛宣懷の許に到達せり。五時軍令部に電報を發す。文廷式，邵夢石，景山長次郎，西田龍太来訪。夜更汪康年来訪。

三月二十六日 陰天。正午姚文藻の招邀に赴く。同座邵夢石外一人たり。午後二時辞歸。白岩龍平，吉田順藏，岡田兼二郎来訪。晩澤村繁太郎の招宴に四馬路聚豐園に赴く。九時帰る。日本より露国に向ひ満洲密約の事に付き抗議せりと云ふ。

三月二十七日 積陰。漢口岡，橘，瀬川，柳原，木野村，久米等に発信す。午後牧卷次郎，汪德淵允中，方燕廉守六等来訪。共に安徽人。晩白岩の招宴に杏花楼に赴く。九時帰る。

三月二十八日 陰。午後中智，中西筑水，神津，坂田，大原，篠崎等来訪。夜澤村を正金銀行に訪ひ，去て稲村を旭館に訪ふ，在らず。

三月二十九日 陰天。漢口三輪に致書し，神保，松本，古谷，中畑，大瀧等に名刺を送る。天野恭太郎，宮坂九郎，大原信来訪。天野は近日中南京領事館事務代理として，宮坂は四川に向ひ，今明日に此地を出発すと云ふ。午後出て西田，中村を訪ふ。晡時宇野，山田，曾根原等来訪。晩篠崎の招邀に聚豐園に赴く。帰途宮坂，中智等の西上を大亨丸に送る。

三月三十日 晴。午後馬車を賃し龍華寺に遊び桃花を觀，帰途高昌廟の同文書院を一覽し，景山長次郎と小談，帰寓。留守中白須直，深澤暹等来訪せりと云ふ。夜中村，上田来訪。

三月三十一日 晴。是日船を賃し鳳凰山に遊ばんとし黎明結束，館を出て新聞橋畔の船行に至り船を僦ふ。行主船僦を貪り狡猾悪むべし。遂に此遊を中止し，西郊を獵して帰る。留守中澤村繁太郎来訪せりと云ふ。午後西郊に獵し鳩四羽を獲たり。

四月初一日 晴天。澤村より三馬路慶余堂にて晩餐の請帖到る。又た佐原よりも金小室の家に小集の請帖到る。因て佐原の招きを辞して澤村に應ず。黎明郊外に銃獵す。午前遠藤留吉来訪。蘇州姚文藻の信到る。錢維驥来訪。夜大森生来訪。夜白岩，岡田と澤村の招邀に三馬路慶余堂に赴く。台湾紳士林朝棟，福建の巨室王孝繩，孫葆桂，劉怡等来会。歡飲十時に至て席散ず。澤村等と天野恭太郎の南京行を江裕輪船に送る。

四月二日 陰。午後佐原来訪。東京根津一，田鍋安之助，軍令部の信到る。晩六時白岩の招邀に聚豐園に赴く。閩人王孝繩以下伊立勳，王仁東，陳某等五六人来会。王氏明日を以て漢口に赴くに付き瀬川領事に添書す。

四月三日 晴天。是日白岩，岡田，景山等と同船にて蘇州より湖州を経て杭州に遊ばんとす。朝来行李を整頓す。熊本留守宅，軍令部に発信す。午後閩人王司直来訪，容貌秀雅の一紳士なり。之に讀書余適一部を贈る。午後五時上車。大東公司に至り一行と上船，蘇州に向ふ。

四月四日 晴。朝蘇州に達し大東支店に投ず（三日より九日迄の日誌は紀行に載せ茲に之を略す）。
四月五日 晴。午後二時蘇州を發し、湖州に向ふ。
四月六日 陰。午前七時湖州に達し、九時半同地抜錨、杭州に向ふ。午後六時杭州着。
四月七日 晴。朝拱宸橋より杭州に入り西湖の名勝を探る。
四月八日 晴。午後五時杭州を辞し上海に向ふ。
四月九日 細雨。午後六時船上海に達す。直に上陸、滬報館に帰る。漢口岡幸七郎、中知秀吉、日本井手三郎、亀雄、緒方二三の信到る。夜山田、大原、上田来訪。
四月十日 晴。午前廈門上野領事、香港陳白に致書し山田良政の下落を問ふ。杭州遠藤亀川、蘇州海津に發信す。午後田邊為三郎、白岩龍平等来訪。晚稲村を訪ひ獵銃を返却し、帰途岡本監輔翁を樂善堂に訪ひ小談、帰寓。
四月十一日 晴天。午後汪康年来訪。二時出て撮影す。去て牧卷次郎、田邊碧雲等を訪ひ、四時帰る。晚白須、深澤、小田切等を訪ひ、去て吉田順蔵を敲く、在らず、九時帰る。西田龍太、上田等来訪。
四月十二日 陰天、午後雨。午前文廷式、今晚石路の旗亭に小集の案内あり、行て之を辞す。佐原を訪ひ小談、帰る。橋本齋次郎、岡田兼二郎来訪。武昌柳原又熊、木下健太の信到る。木下に復書し、岡に一書を附す。松原温三来訪。明日の便船にて帰国すと云ふ。午後雨。出て大東に至り田邊為三郎の杭州行を送る。七時西村天囚、白岩龍平と馬車を共にし順泰洋行に至り、橋本、佐野、吉田、稲村、竹下等と杏花楼に会飲し、十時吉田の案内にて更に一旗亭に会し、盛談十一時に至り、雨を衝て博愛丸に至り橋本、佐野、松原、景山以下の帰国を送り、十二時帰る。
四月十三日 晴。午後佐原、澤村来訪。澤村と四馬の北京人開く所の酒館に至り晩食す。六時上車、澤村と出て篠崎を訪ひ小談。去て稲村を敲き、九時帰る。漢口岡幸七郎、三輪高三郎の信到る。
四月十四日 陰天。午後西田龍太を誘ひ日本墓地に至り、浦敬一、廣岡安太の招魂碑に展し、去て西郊に散策し、五時帰る。
四月十五日 陰天。午前中村兼善来訪。午後岡本監輔翁来訪。白岩より晩餐の案内有り、之を辞す。
四月十六日 晴。漢口橋三郎、熊本米原繁蔵の信到る。米原は大坂第八中学校に転任せりと云ふ。漢口橋、岡に復書し、熊本留守宅に一書を發す。漢口岡、安慶張伯寅並に海軍軍令部より五月より七月迄三ヶ月分手当三百円を送り来る。漢口岡に返書す。趙仲宣、松林孝純、中村兼善等来訪。
四月十七日 晴。午前西村天囚、中村兼善来訪。午後佐原篤介来訪。長崎佐野常明の信到る。蘇州姚文藻に致書す。
四月十八日 雨。午後柴田、西田、大森等来訪。漢口瀬川、橋、岡に写真を送る。
四月十九日 陰天。午文廷式、佐原来訪。夜山田、上田、井上清秀等来訪。
四月二十日 雨天。是軍令部に報告を發す。外に中村に私信一通並に安保に手当領収証を發し、熊本留守宅に写真を郵送す。午後篠崎、中村来訪、中村より蘇州姚文藻の信を領す。六時中村、篠原と出て、虹口徐園に大東汽船会社三角航路開業の祝宴に列す。会するもの百余人。十時散歸す。
四月二十一日 雨。午前西田、中村来訪。午後錢維驥、馬同来訪、馬は広西桂林人なり。午後澤村繁太郎、荒井甲子之助、秦長三郎等来訪。晚澤村と雅叙園に至り晩餐し、正金銀行に長を訪ひ、十一時帰る。
四月二十二日 陰天。月曜日。東京齊藤力三郎並に勝木、亀雄等に致書す。宇野海作来訪。瀬川浅之進、河口介男、姚文藻の信到る。
四月二十三日 陰。西田、中村、井汲等来訪。
四月二十四日 雨。東京軍令部並に同文会に發信す。午後西本、副島、上田等来訪。白須直来り別を告ぐ。二十七日の便船にて帰国すと云ふ。夜小越平陸来着、西安の状況視察に赴くが為に来れる者なり。中村兼善来訪。熊本留守宅、中西和專、井手の信到る。

四月二十五日 陰天。
四月二十六日 晴。午前宇野、荒井、上田等来訪。正午上田、篠原、牛島を伴ひ虹口に至り中食す。上田の東帰に托し東京岡本源次、池田末男、江崎嘉蔵に致書す。漢口岡幸七郎に発信す。夜田邊為三郎、宇野、上田等の帰国を神戸丸に送り、十二時帰る。
四月二十七日 陰。午前荒井来訪。午後五時澤村、小越、荒井等と四馬路叙雅園に至り晚餐し、帰途正金銀行に至り小談、帰寓。
四月二十八日 晴天。日曜日。午前白岩龍平、佐原篤介、西田龍太来訪。午時白岩、小越を伴ひ叙雅園に至り中食し、去て成田安輝を訪ひ小談。白岩と共に吉田順蔵を訪ふ、在らず帰る。明石艦長上原大佐来訪。
四月二十九日 晴。中村来訪。重慶井戸川辰三、廖鏡清、廈門上野領事、漢口岡、橘、木野村、岡幸七郎の信到る。岡より四月分手当を送り来る。姚文藻、小田切領事来訪。小田切より晚餐の案内有り。七時之に赴く。会する者、主客十人。九時半辞出、大亨丸に至り小越平陸の西安行を送る。十二時帰る。
四月三十日 陰。朝佐原来訪。午後中村、西田来訪。夜竹川藤太郎来訪。
五月初一日 雨。正午佐原の招邀に雅叙園に赴く。文廷式、連文冲、志錡、李伯元以下数人来会。午後四時散ず。熊本留守宅、軍令部、鳥居赫雄、井手三郎、岩永八之丞等の信到る。鳥居、岩永に復書す。外に竹川に托し天津伊集院、北京市原、中島真雄等に致書す。姚文藻来訪。晩牧の招邀に赴く。九時辞して東和に至り、竹川を訪ひ小談。橿原、村山に晤し、転じて豊陽館に至り、篠原並に柳原の細君を訪ひ小叙、帰寓。
五月二日 陰天。午後篠原祐喜、柳原内君来訪。二時小村来訪、北京より来れる者、少壮有為の士なり。談論時を移て帰る。晩澤村を訪ひ、九時帰る。深更汪康年来訪。
五月三日 晴天。午前中村、西田来訪。午後中谷整治、柄原孫蔵、山村令蔵等来訪。夜姚文藻を訪ひ、転じて小村、堀、白岩、岡田列を敲き、十一時帰る。
五月四日 晴天。日曜日。午前一時博愛丸に至り白岩夫婦、白須直、中谷整治等の帰国を送り、中村、佐原と軍艦赤石に至り上原艦長を訪ひ帰る。午後六時澤村と雅叙園に至り晩食し、帰途成田を訪ひ、正金銀行に至り、十時大利丸に篠原祐喜、柳原内君の漢口行を送る。
五月五日 晴。午前佐原、姚来訪。午後佐原と東和に至り村山令蔵等を訪ひ、去て澤村を正金銀行に敲き、午後六時三人出て姚文藻の招きに大和豊洪素江の家へ赴き、九時帰寓。
五月六日 晴。午前姚元耿を伴て正金銀行に至り本日より入社を取計らひを為し、金三百七十元を預け入れて帰る。午後高昌廟の同文書院に至り一覽し、四時帰る。軍令部中村大佐、東亜同文会の信到る。
五月七日 陰天、夜小雨。是日より春期競馬有り、寓楼に来客甚多し。晩澤村、佐原と虹口に至り鰻飯を食ふ。帰途岡田を訪ひ、十時帰る。
五月八日 微雨。是日同文書院職員、生徒八十名近江丸にて来着の報有り。午後四時行て之を迎ふ。根津一、菊地謙二郎以下職員、生徒合計八十人。
五月九日 風雨。正午上車、高昌廟同文書院に至り根津、菊地等を訪ひ、五時帰る。吉田、岡本来訪せりと云ふ。
五月十日 晴。午前佐原、姚来訪。熊本井手三郎の信到る。岡本監輔来訪。
五月十一日 晴。午後汪康年、岡崎高厚、姚等来訪。澤村、佐原と雅叙園に至り晩食し、去て正金銀行に至り、九時帰る。
五月十二日 晴。日曜日。佐原の処に至り中食し、去て宋伯魯を訪ひ小談、辞帰。午後岡崎高厚を東和に訪ふ。四時帰館。西村天囚、森茂、木造高俊等来訪。六時佐原の案内にて金谷香に至り洋饌を吃

す。文廷式、志錡、李伯元等来会。席散じて佐原、志錡等と天仙茶園に至り観劇し、十一時帰る。

五月十三日 晴。本日志錡氏より晚餐の案内有り、事を以て之を辞す。午後高昌廟同文書院を訪ふ。帰りて小田切を訪ふ、在らず。深澤に抵り小談、辞帰。漢口橋三郎の信到る。

五月十四日 陰天。午前佐原来訪。東京上田の信到る。漢口岡より五月分の手当送り来る。漢口岡、橋に復書す。軍艦扶桑艦長並に陸戦隊長より来る十九日扶桑に於て茶話会の案内あり。郵船会社林民雄より晚餐の案内有り、佐原等と共に赴く。十時席散ず。大和号に至り西村天囚の南京行を送る。

五月十五日 晴。午前埠頭に至り長岡子爵一行を迎へ、三井に至り子爵と小談、辞帰。根津、菊地、姚等来訪。七時三井小室の招邀に赴く。同座長岡子爵、小田切、根津、菊地、井手、藤津及余なり。九時席散ず。子爵より其著雲海詩集一部を贈らる。

五月十六日 陰天。午後汪康年、牧、荒井、樺原、岡田、深津等来訪。

五月十七日 晴。午前長岡子爵来臨。正午子爵を請ふて杏花楼に至り中食し、午後黃易及び張伯純の弟少海来訪。夜岡田の処に至り同文書院開校式諸般準備の事を囑托して帰る。蓋し余明日より杭州に赴くを以てなり。

五月十八日 晴天。東京中村静嘉、熊本留守宅、柏原文太郎に発信す。漢口岡幸七郎に発信す。近衛公爵に発信す。根津、菊地、文廷式等来訪。本夕より長岡子爵と杭州に遊ばんとす。行李を整頓す。

五月十九日 晴、熱甚。拱宸橋着。

五月二十日 杭州滞在。西湖に遊ぶ。

五月二十一日 杭州滞在。巡撫余聯沅に会見す。

五月二十二日 杭州滞在。

五月二十三日 杭州発。

五月二十四日 上海着。

◎十八日より二十四日迄の紀事は別に杭州遊紀に載す。

五月二十五日 晴。午前小濱為五郎来訪。相見ざる七年。根津一来訪。午後三時文廷式、汪康年、姚文藻、鄭官応、趙仲宣等の招邀に辛家巷園に赴く。長岡子、根津、井手、佐原、小田切及び予の六人客位たり。六時辞して馬車を駆り、三井小室三吉の招邀に赴き、八時辞出。髪を理し、去て小濱為五郎と常盤舎に赴き、十時帰る。

五月二十六日 陰天。是日同文書院開院式を挙るを以て早朝之に赴き斡旋を為す。日清来賓三百名。予式場に於て西郷侯の祝文を代読す。両江総督代理、両湖総督代理、浙江巡撫代理皆祝文を朗読す。六時半席散ず。根津の処にて晩食し帰る。

五月二十七日 陰天。午前錢維驥来訪。是日王仁東、劉怡両氏主人となり長岡子爵及び余輩を松柏園に招待す。陳季同亦来会。七時席散ず。漢口橋、岡の信到る。是日東京熊谷直亮に覆書し、太田八十馬に関する紀事一則を送る。

五月二十八日 晴天。終日在寓。午後牧、佐原来訪。

五月二十九日 晴天。杭州大河平、齊藤、伊藤、村山、岸、遠藤並に漢口岡、橋、角田等に発信す。午後陸戦隊屯所に至り宇敷指揮官に面し、去て軍艦扶桑、明石を歴訪し、転じて篠崎、牧、香月、荒井等を訪ひ、虹口にて鰻飯を喫し、晩澤村を訪ふ、在らず。去て長岡子爵を訪ひ小談、辞帰。

五月三十日 晴。午前長岡子爵、根津外二三氏と日本墓地に至り、正午子爵の案内にて杏花楼に中食し、三時帰る。姚文藻来訪。晩根津より杏花楼に案内あり。席散ずの後、長岡子爵、小田切、御幡の一行を江孚輪船に送り、十二時帰る。

五月三十一日 晴。午前同文書院に根津、菊地外諸人を訪ひ別を告げ、帰途姚文藻を訪ひ小談、帰る。宇敷中佐来訪。午後文廷式、佐原等を訪ひ小談、帰る。岡田兼次郎来訪。中村、西田、曾根原、平岡、山田、那部、樺原、村山等来り訪ふ。村山、樺原より葉巻煙草二箱を餞別す。井手の案内にて豊

陽館に至り晩食し、帰途村山、櫛原、汪康年等を訪ひ、十一時帰る。岡田兼次郎より林則除の真蹟一軸を餞別す。佐原来り別る。

六月一日 陰天。是日余西京丸に乗り帰国せんとす。早起行李を戒め、七時半滬報館を出で船に上る。井手、篠原、牛島、岡田、井原、荒井、成田、村山、櫛原、中村、根津、那部、河野、秦、林、中西、盛、篠崎、牧、稲村、文廷式、水川、平岡、小濱、深澤等来り送る。文廷式、姚文藻、牧、荒井等送別の詩有り。十時半錨を抜く。

六月二日 晴。風大に涛荒く、船体揺動殊に甚し。

六月三日 雨。午前七時船長崎に入る。九時土佐屋に投ず。同文書院より依頼の写真並に篠崎の時計を小包にて郵送し、加え香月より托されし金十円を福岡鍛冶町吉田又七方香月朝子に匯送す。根津、篠崎、岡田、牧、荒井、井手、篠原、牛島等に発信す。熊本留守宅に電報を發す。長崎新報記者上野秀次郎来訪。午後正金銀行に至り為替金六百七十円を受取る。帰途鎮西日報社に至り佐々澄治、岩永令亟を訪ふ。東京中村静嘉に帰朝を報道す。佐々澄治来訪。夜権藤善太郎、高柳登来訪。

六月四日 晴天。褥食旅寓を出で車を駆りて長崎停車場に至り、五時二十八分熊本行汽車に乗ず。十一時半鳥栖に達し下り汽車に控坐し、午後二時半池田駅に達し上車、千反畑の宅に帰る。妻學門に迎へ旧犬衣裾に入る。心中頗る快適なり。大江岳父来問。晚河口介男来訪。

六月五日 陰、午後雨。午前藤本親信、山田珠一来訪。午後市原源次郎来訪。晩食後親戚を廻訪し、八時帰る。井手理七郎氏に発信す。

六月六日 雨。午後河口介男、阿部野利恭、上田茂次郎来訪。

六月七日 晴。午後市原源、井上良蔵及び支那人郭鐘韶、傅汝勤等来訪。生田大尉、伊津野戸市来訪。夜。

六月八日 晴。午前永原虎雄来訪、之を留て中食し、午後九州日々社、支那店、岡崎唯雄、徳久知事を歴訪して帰る。谷口、村上等を訪ふ、皆在らず。漢口岡、橘に発信。大坂鳥居に復書す。

六月九日 晴。日曜日。午前谷口長雄、上田小三郎、河口介男来訪。午後枋原、津野、武藤等を訪ふ。夜朝日、津野一男、武藤虎太等来訪。

六月十日 晴天。午前牛島貫吾来訪。上海根津一、林民雄、水川復太、村山令蔵、櫛原等に発信す。午後廣岡理則、神崎某来訪。島田数雄、阿部野利恭を招き晩食す。

六月十一日 晴。上海井手、漢口岡の信到る。中食後宇土に赴き法華寺、城山の先塋に展し、奥村宅に至り、六時の汽車にて帰る。留守中橘三郎来訪せりと云ふ。夜池内源七来訪。田中清司の信到る。

六月十二日 陰。午前藤本を支那店に訪ひ、帰途二三家を歴訪す。午後市原源次来訪。夜大江の招邀に赴く。

六月十三日 微雨。午前吉住半吾来り、金若干を借りて去る。午後中西嘉善来訪。

六月十四日 晴。白岩龍平の信到る。之に復す。夜河口宅を訪ふ。

六月十五日 晴。午前藤本親信来訪。午後村上一郎来訪。伊津野戸市の信到る。晚岡崎唯雄の招邀に商業會議所に赴き、九時帰る。

六月十六日 陰天。午後佐野直喜来訪。晚大江を訪ふ。

六月十七日 朝雨。安達謙造、緒方某来訪。

六月十八日 晴。午前阿部野、中路来訪。猪飼麻次郎の訃到る。上海井手、大坂橘並に猪飼、伊津野に発信す。夜島田数雄、河口介男来訪。

六月十九日 晴。

六月二十日 晴。岡幸七郎、松倉善家、篠崎都香佐に発信し、並に篠崎に時計を小包にて郵送す。夜河口宅を訪ふ。

六月二十一日 雨。田中清司来訪。

六月二十二日 雨。橘三郎、市原源次郎の信到る。午後安達、山田等を訪ふ。
六月二十三日 半晴。日曜日。米原繁蔵の信到る。晩河口介男の招邀に赴く。
六月二十四日 微雨。漢口岡幸七郎の信到る。六月分同文会手当七十円を送り来る。漢口岡に復書す。
午後島田、阿部野、中路、上田茂次来訪。夕刻諸子を拉して水前寺に至り、水明楼にて阿部野の西伯里行を餞す。九時帰る。
六月二十五日 雨。午後金六百元を第九支店に預け、去て郵便局に至り漢口送來の金七十円を受取り、藤本親信を訪ひ小談。帰途阿部野利恭を山崎町に訪ひ別を叙して帰る。夜片山敏彦来訪。是日鳥居赫雄の信到る。七月三日より独逸に向て出発すと云ふ。白岩龍平、根津一、田鍋等の信到る。
六月二十六日 雨。大阪鳥居赫雄に復書す。夜河口介男来談。
六月二十七日 雨。米原繁蔵に復書す。午前橘三郎来訪、之を留て中食す。午後支那店に至り橘、藤本等に会し、開陽亭にて晚餐を共にし、七時橘と別れ帰る。橘は明早出発渡清する者なり。
六月二十八日 晴。蒲池某来訪。宮原の信到る。夜河口介男来訪。
六月二十九日 雨。午後田中清司来訪。
六月三十日 雨。長崎阿部野利恭の信到る。
七月一日 陰。午後島田数雄、光永来訪。午後永原虎雄、津野一雄来訪。
七月二日 微雨。上海井手、篠崎の信到る。午後井芹経平来訪、之を留て晩食す。
七月三日 微雨。午後津野を訪ふ。大坂緒方二三の信到る。
七月四日 雨。午前勝木恒喜来訪。
七月五日 雨。
七月六日 陰。大坂緒方に覆書す。門司鳥居赫雄、漢口岡幸七郎の信到る。午後安達を訪ふ、在らず。片山敏彦来訪。晩片山を井芹宅に訪ひ、十時帰る。
七月七日 半晴。七時池田駅に至り片山敏彦の清国行を送る。午後緒方二三来訪。昨日大坂より來れるもの。宮原義雄、柴田常三郎前後来訪。是日先妣の忌辰たり。素餐時物を靈前に陳し、諸妹を招き小齋を行ふ。夜内人と共に武藤虎太を訪ひ、九時半辞歸。安達に致書す。
七月八日 暴雨。
七月九日 晴。朝安達謙造来訪。東京中村に機密費決算書を送る。宮原義雄に発信す。奥村傳氏来訪。上海山田純三郎の信到る。山田、根津に発信す。夜大江を訪ふ。
七月十日 雨。午後浅井九郎来訪。
七月十一日 晴雨無定。午前佐々木昌興来訪。午後池内源七来訪。
七月十二日 雨。
七月十三日 雨。藤本親信来訪、五十元を借り去る。是日より盂蘭盆会たり。
七月十四日 暴雨。
七月十五日 暴雨。海軍々令部副官並に長崎勝木、漢口橘に発信す。白川大に漲る。河口介男来訪。
七月十六日 雨。漢口岡より七月分同文会手当七十円を送り来る。橘三郎の信到る。
七月十七日 微雨。午後内藤儀十郎来訪。夜河口宅を訪ふ。
七月十八日 雨。長崎勝木の信至る。午後鳥居の留守宅を訪ふ。
七月十九日 微雨。牛莊松倉善家の信到る。
七月二十日 雨。市原源の信到る。午前藤本來り三十元を繳還す。
七月二十一日 微雨。日曜日。
七月二十二日 晴。海軍々令部加藤並に岡山瀬川浅之進の信到る。
七月二十三日 晴。上海井手の信到る。軍令部よりの為替券入書状を転送し来る。夜島田数雄来談。
七月二十四日 晴。

七月二十五日 晴。牛莊深水十八の信到る。漢口岡幸七郎並に勝木、黒瀬又雄、軍令部加藤、瀬川浅之進に発信す。松倉善家の信到る。昨日三角に着せりと云ふ。
七月二十六日 雨。午前松倉を支那店に訪ひ、午後帰る。是日弟光彦の七回忌辰に当るを以て法会を営む。
七月二十七日 晴雨無定。夜大江を訪ふ。
七月二十八日 晴雨無定。晚岳父並に介男氏を邀へ晚餐す。球磨浅井九郎の信到る。
七月二十九日 晴。朝島田数雄、小林改一郎来訪。晚親戚の女客を饗す。黒瀬又雄の信到。
七月三十日 晴。午後津野を訪ひ、共に出で守田愿氏養父の病を問ふ。
七月三十一日

三十四年六月以降清国雑事

西安行在に向て御史王鵬運、榮禄を弾劾し、兼て樊增祥、譚啓瑞、胡珽三人を劾す。
西安行在中、鹿傳霖、李蓮英の勢力を以て最大とす。廉、李に結で太后の歡心を得、近頃榮禄を凌ぐの勢あり。鹿の党は侍郎陳邦瑞、樊增祥を以て頑固の魁と為す。又次回兵の統領馬安良なる者、李の腹心たり。尚侍郎貽穀なる者あり。尤も獷悍たり。
西安にては、鹿、李（蓮英）の結納益深く、之に加ふるに吏部侍郎陳邦瑞を以てし、三虎の称あり。現に榮禄の権勢漸く衰へ、退隱を請ふ再三に及べりと云ふ。京内外各大官の上奏も李蓮英先づ之を檢閲し、而て後之を太后に進む。其の己れの意の反する者は捨てて上らずと云ふ。
義和團起てより各省に於て外国宣教師の殺されたるもの二百四十八、内英人を以て最多となす。
董福祥、其の旧部を率て山西太原府を取り、進で直隸に入らんとす。
直隸一帶聯莊会、拳匪の殘党、勤王軍の遺散されしもの、江蘇北地の饑民（直隸深州、任邱、肅寧、保定、彰德、大名一帶、江蘇北境の匪は清江浦を以て総匯とす。又盛京省鳳凰城、九連城、安東県一帶飪匪あり、勢頗猖獗）聯莊会の首領は武拳人田洛猷なり。
英、長江を經營し、米、粵漢鐵道を經營し、英は緬甸より鐵道を雲南に布き、四川に通ぜんとし、仏は已に思茅、蒙自、和曲等の地に市場を開き、仏の鐵道は安南の老開より蒙自を経て雲南に達し、然る後四川成都に延べ、又た一線は龍州より南寧に達し、此より更に三線を分ち、一は百色に達し、一は北海に達す。
○張百熙、戊戌の逋臣を起用するの議を建つ。何乃瑩、極力之を阻撓す。
○直隸深州一帶の匪首田洛猷（武拳）等を討伐に赴きしは呂本元なり。
○仏国、浙江の象山港を索む。
○宣化府属の八州県の教案賠償金額（教堂燒燼、教民の損害、死者の扶助等）は百四十四万兩。湖南衡州の賠償は三十六万兩。
昨年来露国が東亜に於ける作戰上動員したる軍隊及増兵の数は、約將校四千六百人、下士卒二十一万五千人。要塞地方守備補充等の諸隊を除去せば、戦闘員概計將校四千人、下士卒十七万五千人は全く清国に対して攻撃的動作を為し得べきものにて、尚滿州鐵道守備兵約五千人ありと云ふ（大坂朝日新聞）。

八月一日 晴。
八月二日 晴。午後松倉を春日に訪ひ晩食後帰宅。但州白岩龍平、大坂米原の信到る。
八月三日 晴。河口氏と□□に至り獵銃を見る。九時帰家。守田亥重氏死去の訃至る。
八月四日 晴。朝守田愿を訪ひ吊儀を叙す。午後五時守田氏の葬を細工町に送る。炎威如烘、帰途雨に遇ふ。長岡子爵、柳原又熊の信到る。

八月五日 晴。白岩龍平に復書す。長岡子爵に返書を發す。
八月六日 晴。岡次郎の信到る。
八月七日 晴。上海井手、漢口橘の信到る。
八月八日 晴。午前藤本来訪。正午家族を携へ水前寺に遊び、水明樓に中食し、五時帰る。
八月九日 晴。午後守田愿を訪ふ。夜寶妻寿作来訪、本日漢口より帰来せりと云ふ。
八月十日 晴。午前郵便局に至り岡よりの送金七十元を受取り、去て肥後銀行紫藤猛を訪ひ、井手より依頼の件を商量し、転て支那店に至る。藤森、寶妻、藤本等在り。正午三人を誘ひ中食を饗し、藤本と肥後銀行に至り第九銀行新株十八枚を六十三円にて購ひ、去て第九銀行に至り株券の名前書き替を依頼し、支那に至り、五時帰る。上海井手、漢口橘、柳原、東京岡次郎に發信す。留守中守田愿来訪。夜鳥居の留守宅を訪ふ。
八月十一日 晴。午後津野一雄、永原虎雄来訪。共に出て山田を訪ふ、在らず。牛莊深水十八に發信す。夜古川権九郎を訪ふ。
八月十二日 晴。朝山田珠一、永原虎雄、柴田常三郎来訪。柴田に金五元を貸す。午後古川来訪。四時新鍛冶屋町岡崎亭の親睦会に臨む。会する者、守田愿、古川、永原、津野、古莊新象、山田珠一、毛利篤、牛嶋、上野以下十余人。夜に入て雨。十時帰る。
八月十三日 晴。漢口岡の信到る。
八月十四日 晴。午後井芹夫婦、河口介男来訪。夜松倉善家、支那人王子修を携へ来り訪ふ。東京岡本源次の信到る。
八月十五日 晴。午後松倉を訪ふ。其の東道にて支那人を携へ水前寺に至り水明樓に晩食し、黄昏松倉の宅に帰る。夜松倉等と支那店に至り藤本、藤森等と談じ、十時帰宅。
八月十六日 晴。午前守田愿の帰京を池田駅に送る。河口介男、多田亀毛、牛島生来訪。
八月十七日 晴。午後市原源次郎、支那人二名を伴ひ来り訪ふ。夜齊藤國雄、古川権九郎来訪。齊藤十二時半辞歸。
八月十八日 晴。午前齊藤國男を訪ひ、帰途古川を敲く。廣岡理則に復書す。漢口岡幸七郎の信到る。岡より八月分手当七十元送來。岡に復書す。夜理髮す。
八月十九日 月曜日。微雨。軍令部よりの為替券(三百九円二十八錢)を上海正金銀行長氏に郵寄し、長崎正金支店を経由し、熊本に転送を依頼す。岡よりの郵便為替七十元を受取り、又た第九支店の当座預より百円を受取り、河口介男氏に貸附す。是日古川権九郎、齊藤國男、松倉善家、市原源次郎、津野一雄、内田友義を招き晩餐を饗す。
八月二十日 半晴、夜微雨。井上良造来訪。夜古川を訪ひ別を叙す。其明日を以て帰京するを以て也。帰途津野の処にて寛談、十時帰る。上海中西和專の信到る。
八月二十一日 微雨。夜來風邪の気味あり。本日を以て家を携へ三角に遊ばんとす。雨を以て止む。宝妻来訪。夜齊藤國男来り別る。本夕を以て横須賀に赴くと云ふ。牛莊村生の信到る。
八月二十二日 晴。是日妻子並に妻妹信子を伴ひ三角に遊ばんとす。早起行装を治し、九時四十分上車熊本駅に赴き、十時十七分汽車に乗ず。十一時四十分際崎に達す。上車、三角に到り浦島屋に投ず。午後塩湯に浴す。夜下田一巳を訪ひ、去て海浜に逍遙す。澹月微風、涼氣人を蘇せしむ。
八月二十三日 晴。朝海浜に散歩し、塩場に浴して帰る。夜下田一巳来訪。
八月二十四日 晴。午前塩場に浴す。浦塩阿部野利恭に發信す。三角滞在。
八月二十五日 晴。三角滞在。夜安富喬来訪。
八月二十六日 晴。午後浦島屋同宿の不破熊雄来談。午後四時上車浦島屋を發し際崎に向ひ、五時の汽車に乗ず。網田駅にて山田珠一、市原源次郎等に邂逅す。六時二十分熊本駅に達す。留守中深水十八、池内源七、多田亀毛等来訪せりと云ふ。

八月二十七日 晴。午前妻子を携へ池田より上車。宇土に至り法華寺、城山の先塋に展し、一里奥村氏に至る。午後六時十分の汽車にて熊本に帰る。是日陰曆孟蘭盆たるを以て也。

八月二十八日 晴。午前支那店に至り緒方二三、深水十八等に会し、去て松倉を訪ひ、午後五時熊本駅より上車、池田駅に下車し、途上池田源七を訪ふ、在らず。

八月二十九日 陰、午後微雨。深水十八来訪。小塚泰春来訪。之に梅花石刻一軸を贈る。

八月三十日 晴、黄昏大雨。朝藤本親信来訪。午後支那店に至り緒方、松倉等に会し、五時帰る。林高明、吉永勘次来訪。夜緒方二三、松倉善家来訪、深更辞帰。晚吉永生、長岡子爵の添書を携へ来訪。

八月三十一日 半晴。上海正金銀行より長崎支店を経て軍令部の手当二百九十一円を送り来る。直に長崎支店並に上海正金に領収書を郵寄す。漢口橋三郎の信到る。午前吉永生来寓。夜島田数雄来訪。是夜吉永生を上京せしむ。学習院の試験を受けしむるが為なり。長岡子爵に一書を呈し、吉永の事を依頼す。齊藤國男、守田愿の信到る。守田より故太田八十馬の小伝を送り来る。

九月一日 積陰。午前柴田常、深水十八来訪。午後河口介男、内田友義来訪。兩人を留て晚餐を共にす。

九月二日 晴。古川、多田の信到る。多田に復す。守田、古川に復書す。午後肥後銀行に至り上海よりの送金二百五十円を預け入れ、四十一円を受取り、去て支那店に至り緒方、松倉等に会し、夜に入て帰る。雨。

九月三日 晴。上海井手、白岩、東京田鍋の信到る。井手、田鍋、岡幸七郎、遠藤少将に発信す。深水十八、佐々干城来訪。毛利篤来訪。漢口郵便局二橋に発信す。午後支那店に至り、緒方、松倉、藤本、深水、橋等に会す。橋は本漢口より来着せる者也。晚諸氏と洗馬開陽亭に至り晩食す。

九月四日 雷雨。午前山田九郎来訪。午後緒方、橋来訪、之を留て晚餐を共にす。八時兩人辞去。

九月五日 晴。

九月六日 晴。

九月七日 晴。午後支那店に至り緒方と共に松倉を春日に訪ひ、晩食後三人支那店に帰り小談、九時帰宅。

九月八日 晴。午前松倉来訪、之を留て中食す。午後河口来訪。

九月九日 晴。心気不舒。

九月十日 晴。夜大江を訪ふ。

九月十一日 晴。午前矢野堪房、勝木恒喜、松倉親教来訪。烏港阿部野の信到る。

九月十二日 晴。長岡子爵の信到る。午前肥後銀行に至り預金五十円を受取り、支那店に至り緒方と小談、帰る。

九月十二日 晴。夜松倉来談。

九月十三日 晴。

九月十四日 晴。午後藤本親信の病を問ひ、去て支那店に至り緒方、松倉、井口、藤森等に面し、四時帰る。夜大江の招邀に赴き十時帰。井芹の信到る。

九月十五日 晴。午前勝木恒喜来訪、其の依頼により東京佐々友房、守田愿に発信す。河口来訪。

九月十六日 晴。午前松倉来訪、本日より上京すと云ふ。午後支那店に緒方を訪ひ、其の門司に赴くを聞き、獵銃一挺を三菱汽船の漢口に赴に托し、送り方を依頼す。

九月十七日 晴。漢口岡、上海井手兄弟の信到る。直に返書を送す。岡より九月分手当七十円を送り来る。

九月十八日 晴。午前支那店に至り、宝妻を誘ひ春日より上車、中島村に至り井手の留守宅を訪ふ。午後四時辞し、帰途田中並に某宅に小談、宝妻と共に熊本に帰る。

九月十九日 陰。

九月二十日 午後大雨。
九月二十一日 雨。夜島田数雄来訪、済々饗職員を辞する事を商量す。大江を訪ふ。
九月二十二日 晴。
九月二十三日 晴。漢口二橋季男、岡幸七郎の信到る。亀山、井芹、島田来訪。夜阿部利恭を訪ふ。本夕より帰来せるもの也。不在中藤森、宝妻来訪せりと云ふ。
九月二十四日 晴。午後阿部野、中路、小林、市原来訪。五時井芹来訪。菅井書記官の招邀に静養軒に赴き閑談、九時半に及で辞帰。井芹来談。
九月二十五日 陰。
九月二十六日 雨意。午前橋三郎来訪。東京佐々友房の信到る。午後研屋に至り橋を訪ふ、在らず。亀井英三郎を訪ふ。午後六時山田、亀井、毛利列と一日支店に至り亀井を饗す。会するもの十六人。九時帰る。
九月二十七日 陰。午前三時起床。藤崎宮の御幸を觀る。井芹の病を訪ふ。晌午亀井来訪。中餐後辞し去る。午後女客数人あり。晚島田、市原、宝妻を招き会食す。八時亀井を研屋に訪ひ、十時半帰宅。
九月二十八日 陰。午前阿部野来訪。東京鑄方徳藏に発信す。
九月二十九日 晴。河口、安達来訪。夜宝妻、武藤去帰。吉永来訪。
九月三十日 晴。午前吉永、勝木、狩野、井芹来訪。宮原、岡田兼二郎に返書す。
十月一日 晴。午後支那店に至り、帰途鎮西館安達、平山等に会し、山田に一晤して帰る。軍令部遠藤、東京松倉、長崎郵船会社に発信す。
十月二日 晴。午後阿部野、中路を訪ひ小談、帰る。東京岡本、古川に発信す。夜武藤虎太を訪ふ。
十月三日 陰。午後中路、市原来訪。之を留て晚餐し、共に出て狩野直喜を訪ひ、九時帰る。東京鑄方徳藏の信到る。
十月四日 雨。米原繁藏の信到る。之に復す。橋三郎の信到る。宝妻来訪。橋三郎に返信す。
十月五日 雨。勸業債券利子並に当籤券額四十円を受取る。河口来訪。
十月六日 雨。午前阿部野来訪。午後強風。夜中中島井手の親戚某来訪。市原源次郎来訪。
十月七日 雨。風強。朝津野を訪ひ一事を托す。東京松倉、長崎橋の信到る。夜島田数雄来訪。廣岡理則に発信す。
十月八日 風雨。午後市原来訪。田中清司に返信を發す。薩人橋口兼之来訪。夜津野を訪ふ。
十月九日 陰。上海井手、東京松倉の信到る。井手に復書す。久留米岡田に熊本発の日期を報ず。上野、藤本来訪。中島村廣岡に發電す。夜大江に至り、出水神社の煙花を觀る。
十月十日 晴天。上海井手、北京牧卷次郎、岡幸七郎、勝木並に軍令部加藤副官の信到る。加藤より十一、十二、一、三ヶ月分手当四百円を送り来る。午前宝妻と谷尾崎に至り、藤森を訪ひ、中食後谷隱に遊び庭内を徜徉して、藤森に別れ熊本に帰る。是朝柴田常三郎来訪。狩野来訪。
十月十一日 健晴。加藤副官、牧卷次郎、勝木、岡に復書す。中島廣岡の信到る。
十月十二日 雨。午前内田岳父来宅せる。夜□□に□□髪を理す。
十月十三日 雨。午前落合為誠来訪。午後狩野直喜来訪。
十月十四日 晴。肥後銀行に至り、軍令部よりの送金四百円を受取り、去て支那店に至り小笹に托せし保険金を入れ、第九銀行の預金を定期に預け□□。夜大江の招邀に赴く。
十月十五日 晴。郵便局に至り同文会十月分手当七十円を受取り帰る。
十月十六日 微雨。午後田中、小田、毛利、内藤、牛島、藤本諸氏を歴訪して別を叙し帰る。狩野、池田、廣岡来訪。
十月十七日 晴。午前菅井書記官を訪ふ、在らず。去て河口、大江、井芹、武藤、鳥居、狩野、津野、上野、櫛原諸氏を歴訪、叙別。午後島田、不破、池内、徳久知事、荒井、中西、村上諸氏を訪ひ告別

す。池内源七、牛島貫吾、梶原孫藏、市原源次郎、池田一郎等来訪。河口宅に至り晚餐す。佐々友房氏より観風詩史を送り来る。

十月十八日 晴、風大。午前鄭、傅、二清人並に島田数雄来訪。午後市原、中路、中西太善氏、内田岳父来訪。佐々友房、亀井英三郎、浅井九郎に発信す。岡田兼次郎の信到る。直に之に復す。夜河口来訪。

十月十九日 晴。午前狩野、牛島、市原、中路、落合、田畑来訪。東京佐々友房氏の信到る。午後中西太喜氏、上野、武藤虎太、毛利篤、内田岳母、内田友義、菅井書記官来り訪ふ。夜河口、津野、井芹来訪。

十月二十日 陰天。日曜日。是日啓程清国に航せんとす。詰朝行李を戒む。午前七時半家に別れ上車上熊本駅に向ふ。狩野直喜、宝妻寿作同行たり。八時五分の汽車に上る。内田岳父、内藤儀十郎、津野一雄、武藤虎太、井芹経平、不破熊雄、池内、河口、市原、中路、落合、藤本、山田珠一、池田一郎、吉永勘次、徳久知事代理、中川静嘉、廣岡理則等来り送る。午後七時長崎に達し土佐屋に投ず。勝木来訪。夜井深の処を訪ひ、去て警部長丸山重俊を訪ひ、十一時半帰る。

十月二十一日 快晴。菅井、松倉、緒方並に留守宅に寄書す。久留米岡田兼次郎の信到る。大坂毎日新聞社員田代直樹来訪。午後別府真吉、勝木恒喜来訪。四時西京丸に乗ず六時開船。

十月二十二日 晴。海波平穩。

十月二十三日 陰。午前十時船上海に達す。井手、篠原、牛島、菊地、大原、山田、中西等来り迎ふ。直に上陸、同文滙報館に投ず。午後出て狩野、篠崎を訪ひ、去て領事館に至り横田、深澤等に面し、帰途大東に香月等を敲き、転じて井戸川辰三を東和に訪ふ、在らず、帰る。晚篠崎、中西等来訪。

十月二十四日 晴。原田、盛、土井、狩野、宝妻、中智等来訪。宝妻の漢口行に托し橘、岡、柳原等に寄書す。

十月二十五日 晴。午前狩野と高昌廟同文書院に至り菊地謙二郎を訪ひ、十一時帰る。午後井戸川来訪。

十月二十六日 晴。軍令部遠藤、熊本留守宅、津野、岡田兼次郎、別府真吉に発信す。詰朝西郊に銃獵す。午後横田三郎、西田龍太、根岸、曾根原、山田、大原、工藤千代太郎、坂田、西本、松島、内藤、狩野等来訪。夜汪康年来訪。

十月二十七日 晴。西郊に獵す。午後岡野、森茂、井原真澄及び同文書院生徒二名来訪。神戸山内崑、熊本留守宅の信到る。山内、小山秋作、留守宅に致すの信並に海軍々令部への報告を認む。夜西村天囚来訪。

十月二十八日 晴。午前姚文藻来訪。午後出て汪康年、姚文藻、堀、西村、稲村、林、水川、小室、長、杉原等を歴訪して帰る。夜井手の招邀に杏花楼に赴く。席散じて心園に散歩し、去て領事館に横田三郎を訪ひ、十時帰る。是帝国軍艦吉野、赤城の両艦長並に領事館より天長節祝宴の案内至る。

十月二十九日 晴。正午姚文藻より一品香に招飲す。邵夢石同座。午後石塚豊次郎、古閑次郎来訪。

十月三十日 陰天。松倉善家、別府真吉の信到る。午後神戸丸入口行て熊本商業学校生を迎ふ。帰途古閑次郎と狩野直喜を訪ひ、六時帰る。

十月三十一日 陰天、漸寒。姚文藻より明日榊香館に招飲の請帖到る。晚汪康年より杏花楼に招飲す。同座四川学生監督李仁宇以下江某外一人、並に井戸川、西村、井手、菊地及び余なり。九時席散ず。

十一月一日 雨天。午前熊本商業学校生徒、職員来訪、教師許斐姓之を率ゆ。下午四川人李立元、周嗣培来訪。漢口岡幸七郎の信到る、之に復す。井戸川辰三来訪。晚姚文藻より西薈芳里榊香館に招飲。巖筱舫、洪蔭之同座たり。巖は寧波人、富数百万を有す。九時半散帰。

十一月二日 快晴。海軍々令部に報告を發す。狩野来訪。是日井戸川辰三並に熊本商業学校職員、生徒の帰国を神戸丸に送る。帰途狩野を訪ひ、五時帰る。

十一月三日 天長節。快晴。朝領事館に至り、御聖影を拝し帰る。夜領事館の宴会に臨む。

十一月四日 晴。午前五時銃を荷ひ鉄道線路を行き、江湾停車場より市街の南北を獵し、正午停車場側の茶店に憩ひ、午後再び村落に入り鳩六羽を得て帰る。夜横田、井手、狩野、篠崎、深津等と会食す。

十一月五日 陰。午後西村を訪ひ、去て豊陽館に中智、宝妻を訪ひ、宝妻に牛莊田邊熊三郎への添書を付し、別に莊村、深水に致すの書を託す。夜篠崎の招邀に杏花楼に赴く。漢口岡の信到る。白岩の信到る。

十一月六日 雨。姚文藻来訪。遠藤少将、別府、島田の信到る。中智生来訪。

十一月七日 快晴。熊本留守宅、内田岳父、河口介男、島田数雄、佐々、国友に発信す。熊本不破熊雄の信到る。之に復す。午前同文書院に至り別を告ぐ。午後篠崎、狩野、白岩等を訪ひ別を叙す。狩野、西村天囚来訪。白岩龍平又来訪。晚西村天囚より一品香に招飲。予の行を饒す。八時半滬報館を出で、大貞丸に上る。菊地謙次郎、井手三郎、狩野直記、白岩龍平、香月梅外、河野久太郎、平岡、中知、上田、黒瀬、西田龍太、山田純三郎、篠原、牛島、井手、吉永等来り送る。福岡人千賀義彦、三井銀行員間島彦彦同船たり。就寝後中西和専、盛某来り送る。

十一月八日 快晴。午前二時開船。夜九時半鎮江に達す。

十一月九日 健晴。午前四時南京に達す。千賀生上陸。午前十時半蕪湖に抵る。十二時開船。船中沙市人王楷卿、鄧政甫、湖南澧州人唐次舫、福建人楊緝卿と談ず。楊生は知人王司直の表弟に係はる。容貌秀美甚可愛。王、鄧二人は沙市三府街人。

十一月十日 快晴。早朝小姑山を過ぐ。九時半湖口県を過ぐ。鄱陽湖南に開き、天鏡一碧、廬山晴煙の裡に彷彿し、風景画けども成らず。十二時九江に達す。楓葉荻花、秋意蕭然。午後一時開船。武穴を過ぎ日没前半壁山下を経過す。兩岸紅葉緑樹と相映帯し、黄葉荻花、其間に点綴し、宛然画中の景なり。

十一月十一日 秋晴極佳。午前六時船漢口に達す。岡、橘、浅井、香坂等来迎。橘と領事館に至り片山等に面し、郵便局大瀧等を訪ひ、片山の処にて中食し帰る。大瀧、浅井来訪。夜商船会社東肥を訪ふ。藤本親信の信到る。

十一月十二日 晴。午前諸子と武昌に渡り、平尾次郎内室の葬を洪山に送る。帰途武備学堂にて武昌の諸人に会し、五時帰る。

十一月十三日 晴。朝國府□東来訪。是日上海井手、熊本留守宅、尾越辰雄、田中清司、山内崑に発信す。山内に巴緞一匹を金島文四郎の帰国に托贈す。外に遠藤少将、金越、別府に発信す。田鍋安之助に発信す。李泉溪、周天順来訪。夜中橋徳五郎、金島、國府等の帰国を送る。

十一月十四日 微雨。商船会社末永一三、片山敏彦、橘三郎等来訪。晚末永の招邀に商船会社に赴く。

十一月十五日 晴。楊子荃来訪。山内崑、國友重章の信到る。午後橘東道と為り、予及び製鉄所総弁李一琴を招飲す。片山、岡亦同座たり。

十一月十六日 晴。午飯後橘、岡と武昌に獵す。獲る所無し。六時帰る。

十一月十七日 晴。日曜日。午前五時岡と江を渡り武昌の下游に獵す。鳩五羽を獲て帰り、東肥洋行に会食す。熊本留守宅、上海井手の信到る。

十一月十八日 雨。中知上海より帰来。夜橘、末永来訪。熊本阿部野利恭信到る。

十一月十九日 陰。熊本留守宅、池邊、井手、西村、堀に発信す。近衛公より張之洞に致すの書を送り来る。上海井原に発信す。上海篠原より電報到る。其文に曰「有緊要事請速来」。目下緊要の事有るを認めざるを以て往かず。書信を發して之に答へ、其の事由を詳報せしむ。大森生来訪。上海白岩龍平の信を交す。森船長来訪。夜領事館を訪ふ。古谷、岡等と大瀧八郎を訪ひ、九時帰る。

十一月二十日 晴。正午森船長の招邀に大亨丸に赴く。

十一月二十一日 晴。上海篠原邦威の信到る。同文書院の窮状を報じ来る。午前橘、岡と武昌に至り、柳原、木野村列を訪ひ、午後帰る。夜片山敏彦来訪。

十一月二十二日 晴。午前井原鶴太郎、河瀬某来訪。井原は漢陽農務学堂の聘に応じ来漢せるもの也。上海井手三郎の信到る。郷電に接し、十七日上海を發し帰国せりと云ふ。牛莊莊村、宝妻二生の信到る。橘、神保来訪。晩食後山崎桂を大貞丸に訪ふ。本日重慶より帰来、明日帰朝するもの也。

十一月二十三日 晴。海軍々令部に報告書を發す。外に同文会及び白岩龍平に發信す。久米大尉来談。山崎領事来談。晩大貞丸に至り平尾次郎、山崎桂等の帰国を送る。帰途東肥にて入浴し、九時帰る。夜上海滬報館の電報に接す。再び予の下申を促し来る。

十一月二十四日 晴。日曜日。午前上海に返電。念七日大利丸にて下江を報ず。朝四時半褥食。岡、橘、白岩と江を渡り武昌城外に獵す。鳩四羽を獲、午後六時帰る。上海篠原の電報到る。

十一月二十五日 晴。朝池邊吉太郎来着。午前池邊、岡と漢陽に遊び、大別山を越へ白牙台に至り、漢水を下りて漢口に帰り、一品香に中食す。午後日本居留地を觀る。夜鉄政局総弁盛春頤、李維格等の招宴に赴く。饗応特に到る。客位は古谷、二橋、岡、橘、片山及び予と鉄局提調李正光の七人なり。十時局より出す所の紅船にて帰漢す。

十一月二十六日 陰。午前池邊、岡と武昌に至り、諸友を訪ひ、柳原の処にて中食し、帰途曾国藩の祠堂並に黃鶴樓に遊び、五時帰漢。大利丸池邊の処にて晩食し、九時帰る。

十一月二十七日 陰。午前池邊来訪。正午池邊、橘、岡諸人と会食す。是日予上海の電報にて江を下らんとす。行李を戒む。東肥にて晩食し、大利丸に上る。池邊と南京迄同船たり。晩片山の招邀に一品香に赴く。八時上船。橘、岡、二橋、片山、香坂、浅井、長安等来り送る。

十一月二十八日 陰。終日池邊、米山等と談ず。午前七時九江着。

十一月二十九日 晴。午前八時蕪湖を發す。十二時南京着、池邊と別る。四時鎮江に抵る。李鴻章の甥李国成上船。李並に船長と晩食を共にす。李の求により内田公使への添書を与ふ。

十一月三十日 晴。正午上海着。篠原、牛島、井手友喜、中知、劉等来り迎ふ。滬報館に入る。白岩、岡田、佐原、岡野、河野、副島、若林、渡邊並に李国成等来訪。是夜李氏より迎春坊の酒亭に招邀、予事を以て之を辞す。法科大学生逸見晋来訪。

十二月一日 晴。午前西郊に遊獵す。午後雨。

十二月二日 晴。熊本留守宅、勝木、井手並に軍令部遠藤に發信す。午前西村、堀、篠崎、中知、井上、白岩等を訪ふ。白岩の処にて中食す。午後森、山田純、佐原等来訪。漢口岡、橘に發信す。夜姚文藻来談。是日より寒氣頓に加ふ。

十二月三日 晴。寒威凜然。午前西郊に遊獵す。午後池邊吉太郎来訪。池辺と出て其の寓処に至り晩食し、九時帰る。井上清秀来訪。

十二月四日 晴。軍令部遠藤、熊本井手、津野、田畑等に發信す。午後池邊吉、西村天囚来訪、共に出て汪康年を訪ふ、在らず。去て姚文藻に抵り小談、帰る。神戸山内崑の信到る。夜同文書院根岸、森、外一人来談。

十二月五日 晴。熊本留守宅。朝鮮葉室堪純に發信す。晩池邊、西村、堀等の招邀に徐家園に赴く。八時半帰る。平岡来訪。

十二月六日 晴。午前狩野来訪。午後共に出て領事館に至り横田等を訪ひ、去て狩野の寓に至り、又出て池邊を訪ふ。夜西村、白岩等の招邀に四馬路迎春坊林宝珠の家に赴く。会する者、稲村、池辺、堀、西村、白岩、狩野及予の七人なり。宴散ずるの時汪康年亦来会。十一時池邊を送りて西京丸に至り、十二時帰る。郵船会社永井久一郎来訪。

十二月七日 晴。午前四時寓を出て江湾附近に獵す。鳩五羽を獲、六時帰る。狩野来訪。留守中根岸、森、松島、内藤等来訪せりと云ふ。

十二月八日 晴。午後白岩、岡田と同車。同文書院の茶話会に臨み、五時帰。夜中西和専訪。

十二月九日 晴。狩野直喜、末永一三来訪。午後吉田順蔵、末永一三を訪ふ。

十二月十日 晴。朝西郊に獵す。獲る所無し。午後白岩龍平並に四川の名士周善培来訪。熊本井手、漢口橋、岡の信到る。岡より十二月分同文会手当七十円を送り来る。

十二月十一日 晴。海軍々令部に第九号報告を郵寄す。是日郵便局より漢口よりの為替金七十円を受取る。日本公使李盛鐸を迎ふ。帰途後馬路に至り周善培、李国成等の寓を覓む、得ず。姚文藻、西田龍太来訪。夜大原信、神津助太郎来訪。東京井手三郎の信到る。

十二月十二日 陰。白岩龍平来訪。狩野来談。

十二月十三日 晴。朝西郊に獵す。鳩四羽を獲たり。午後周善培来訪。中畑栄来訪。晚篠崎都香佐来訪。

十二月十四日 晴。朝西郊に獵す。正午出て周善培の東行を送る。中畑、盛二人本日の便にて帰国。帰途篠崎を訪ふ。午後中知生来訪。

十二月十五日 晴。日曜日。是日上海獵友会の会期たり。午前五時半横田三郎、深津暹、堀扶桑、岡田兼二郎、白岩龍平、関某等と上海を発し江湾附近に獵す。獲る所多からず。因て方向を張園附近に転じ、午後五時帰る。

十二月十六日 陰。午後出て髪を理し、去て領事館に横田三郎を訪ひ、共に出て和楽里に至り昨日の獵友一同と会食す。九時帰る。

十二月十七日 晴。海軍々令部に第一百号、百十一号報告を發す。

十二月十八日 晴。朝西郊に獵す。午後姚文藻、中村兼善、山田、曾根原、狩野等来訪。熊本留守宅、松倉、緒方、井手、井手理七郎氏、岡、橋の信到る。

十二月十九日 晴。井手、松倉、緒方、山内、岡、橋、島田等に復書す。

十二月二十日 晴。夜横田、深津等を訪ふ。

十二月二十一日 陰。午後微雨。午前西郊に獵す。留守中根岸、森等来訪。

十二月二十二日 陰。終日西郊に獵す。鳩四羽を獲。軍令部並に橋の信到る。

十二月二十三日 半晴。根岸来訪、本日より漢口に赴くと云ふ。晚菊池謙二郎、狩野直喜を招き晩食を共にす。白岩龍平、平岡来訪。夜根岸、平岡の漢口行を送る。

十二月二十四日 晴。熊本留守宅に發信す。午後橋本齋次郎を東和に訪ふ。稲村、西村等在焉。談話晡に及で帰る。帰途白岩を大東に訪ひ小談、辞帰。是日正午文廷式、姚文藻兩人より一品香に招飲す。文は昨夜湖南より帰来せりと云ふ。

十二月二十五日 雨意。詰朝西郊に獵す。雨に遇ふ。衣袂悉く沾ふ。即回る。晚橋本齋次郎を東和に訪ふ。吉田順蔵よりの案内にて常盤に至り、橋本、稲村、高塚三大尉、今井少佐、白岩等と会食す。橋本本夕を以て福州に赴くを以て也。熊本留守宅の信到る。並に羊羹一包を贈り来る。

十二月二十六日 晴。菊池、曾根原、隈野準一郎、笹井、狩野、松島、磯田、副島、水野、大原、佐原、荒井外四五人來訪。

十二月二十七日 晴。朝西郊に獵す。鳩六羽、小鳥一羽を獲て帰る。島田数雄の信到る。

十二月二十八日 陰、寒甚。井手三郎に發信す。午後森来訪。夜狩野来宿。

十二月二十九日 雪。朝狩野、井手と西郊に獵せんとす。雪を以て止む。午後白岩を訪ふ。

十二月三十日 晴。西郊に獵す。鳩五羽を獲。晚帰、白岩宅の忘年会に赴く。西村天因、岡田、香月等と寛話し、十一時半帰る。

十二月三十一日 晴。上田、曾根原、菊池等来訪。夜虹口に至り物品数点を購ふ。

明治三十四年四月初三日起至同月 日止
蘇州，湖州，杭州三府舟遊日誌

四月三日 晴。神武天皇祭。午後五時獵銃を携へ蘇州河辺の大東汽船会社に至り，白岩龍平，岡田兼次郎，景山長三郎等と蘇州行の船に上る。船中唱和，興味殊深。予小詩四首を得たり。

似岡田氏

滿月風光欲夕陽，南村北塢春汪洋，知君今夜篷窓夢，不在吳宮在故郷。

似白岩氏 其内君有白雲仙竇女史之号故末一向及焉

当年相思海瀛間，今月羨君心境間，領略人生至樂地，白雲深處是仙寰。

其三

人生樂事無時無，煙水茫茫伴野鳧，海内繁華何處是，二分明月在姑蘇。

其四 吳苑看花是此期

江南春事欲酣時，觀夢吳宮未為遲，煙水一篷客三四，把杯興味有誰知。

四月四日 晴。詰朝浩蕩湖を過ぎ，九時蘇城外の宝帯橋下を行く。橋長二百五十間許，疊むに石を以し，規環五十三道を穿つ。蓋し江南稀有の大橋なり。十時盤門外吳門橋側の大東分店に達す。海津駒吉此に長たり。午後姚文藻を青陽地に訪ひ茶話時を移し，去て郊外に獵し，五時帰る。姚氏新に和洋漢折衷の第宅を築き，雅潔愛す可し。庭前東來の桜樹有り，花を著く。三兩点人をして故山の春色を想望せしむ。五時半閶門外三山會館に設くる所，大東の宴会に赴く。領事館，郵便局，警察署，其他の居留民二十余人來會，九時半散ず。會館の壁上呂純陽の石刻を懸く。筆力勁拔，罕看の物たり。

四月五日 晴。早朝郊外に銃獵す。午前姚文藻其の両兒を携へ來り訪ひ，土宜二点を贈る。午後二時十分一行と汽船に乘じ蘇州を發し，湖州に向ふ。三時五分葑門外密渡橋の税関に達し，二時五十分開船。三時二十分宝帯橋の左側を過ぎ，南に向て進む。橋の南側兵營一座有り。三時四十五分瀛山橋下を過ぎ，四時四十五分三里橋に至る。右方吳江県の城郭を望む，高塔一基有り。上海を發してより兩岸の桃花菜黃柳綠の間に装点し，春色海の如く，風光名状す可からず。蘇州至三里橋十二哩，詩二首を得たり。

流水桃花村又村，牧童歸去欲黃昏，春風吹老江南路，天末離人暗斷魂。

其二

廿年遊跡風塵間，今日扁舟意自閒，贏得篷窓觀夢罷，天邊又認未看山。

六時左岸八尺（地名）を過ぐ。此處水道四分し人家約五百許。牛肉を割て晚膳に充つ。七時半平望を過ぐ。夜黒ふして形勢を觀る能はず。詩一首を得たり。

漁火欲沈煙外村，雁聲叫絕月黃昏，一船同是天涯客，此夕何人尤斷魂。

四月六日 積陰。午前七時湖州城外六清里の三濟橋に達す。人家五六，此より水浅，汽船を行る能はず。即ち上陸府城の東門（迎春門）を入り歸安縣署の前を過ぎ，駱駝橋を度り，左折して大東の代理店に達し小休。船を賃して南水関を出で原船に歸る。湖州にて鹿兒島人伊東辰昌に邂逅す。昨日杭州より來れる者なり。

湖州府城は浙江省の北部に位し，北太湖に臨み，平原を控へ，水路四達の地に鎮在す。周廻十八里，六門を穿つ。即東西南北門及清洞，霸王の兩門是なり。城内に歸安，烏程の二県有り。城中最繁盛の区は中央駱駝橋一帶並に彩鳳坊にして中部より西北に偏し，市塵極て殷盛なり。戸數一万，人口八万内外と云ふ。物産は生絲，縐紗等なり。

九時五十分開船，杭州に向ふ。針路正南を指す。兩岸遠近山巒起伏，風景極佳。桑田滿目，蚕桑の利天下に甲たり。行く少時錢山淥を過ぐ，一小湖を成す。是日春雨霏々，小詩一首を得たり。

此游贏得五湖游，寵辱忘時万慮休，春雨半篷眠足後，檢山点水入杭州。

右岸荻港を過ぐ。瓦屋五百戸。湖州至此二十四里。兩岸の村落樹林少なからず，地味極て膏腴たり。十八里菱湖を過ぐ。左岸に在り，人煙五百余戸。又た南商林，錢家渡の二鎮を過ぐ。共に右岸に在り，戸数各四百余。武林橋を過ぎ，杭州の諸山を煙雨の中に望む。予昔年浙東より杭州に入る，屈指茲に十又四年。今此の江山に対し今昔の感殊に深し。有詩，

一別杭州十四年，重来如故此山川，半生落拓留余恨，欲統西施未了縁。

此辺一帶，水の兩岸弥望皆枇杷樹を種ゆ，遠く数十里に連る。午後六時拱辰橋に達し大東分店に入る。遠藤留吉，亀川玄二郎，稲石健造等在焉。

四月七日 午前八時一行並に分店の諸氏と船に乗り杭州に向ふ。三清里新碼頭を過ぐ。兩岸人家櫛比，此より水道狭隘，水亦極浅し。天竺寺進香の船上下織るが如く，舷に相撞き舳艫相打ち，雑沓名状す可からず。往來の船万を以て数ふ。十一時杭州錢塘門外張公祠に達す。此地湖山を俯瞰し，山色湖光互に相映帶し，風致名状す可からず。祠堂の在る所は嚴氏富春山莊の旧址なり。正午大東の諸氏主となり宴を此処に開く。大河平副領事以下居留官民二十余人來り会す。二時半席散ず。一行と杖を曳て断橋を度り，白堤を緩歩す。堤は白樂天の修する所，一線長く湖上を縦断し，楊柳道を夾む。右を裡湖と為し，左を外湖と為す。蘇文忠，朱文公の祠堂を過ぎ，乾隆行宮の前を經，西冷橋を渡り蘇小小の墓を吊ひ，孤山の兪樓に上り茗を綴りて小憩し，彭玉麟の梅花石刻を購ひ，去て岳飛の廟と墳墓とに展し，小舟を僦て西湖を横ぎり，張公祠前に達し上陸。行く十余丁，舟に乗じて拱辰橋に歸る。時に午後六時半なり。

拱辰橋より杭州武林門に至る十清里。拱辰橋は杭の北に在り，杭州居留民は領事館七人，郵便局三人，警察署三人，大東三人，武備学堂四人（内士官一人，下士三人），蚕学館二人，本願寺日文学堂七人，其他三，四人，合計三十四人。

四月八日 晴。午前郊外に銃獵す。午後五時大東分店の諸氏に別れ，小汽船に乗り拱辰橋を發し上海に向ふ。遠藤，亀川，稲石，石原警部，鈴木郵便局長以下送り來る。夜八時塘西を過ぐ。兩岸人家櫛比，地方の巨鎮也。

四月九日 細雨霏々。午前五時嘉興府を過ぐ。十一時半松江府の傍を通過す。下午二時閔行鎮を過ぐ。左岸に在り，瓦屋五六百戸。五時龍華寺の傍近に至る。満月の桃李紅白相雜り，江に沿て堆を為し簇々として遠く数里に連る。美觀名状す可からず。六時蘇州河畔に達す。直に上陸，大東に至り小憩。上車滬報館に歸る。

杭州遊日誌

五月十八日 晴。午後四時同文会を出て大東公司碼頭に至り，長岡子爵，井手素行，香月梅外諸氏と同船，杭州に向ふ。五時上海を發す。來送する者多し。

五月十九日 晴。詰朝嘉善県を過ぐ。八時嘉興府城外を過ぐ。午後一時石門を經過す。水を挾で市屋櫛比す。六時半塘西を過ぎ，八時拱辰橋に達す。村山，石原，遠藤諸子來迎。大東支店に至り入浴。深更船に歸る。上海を發してより船中興味湧くが如く，子爵尤も談柄に富み諧謔百出，傍人をして抱腹せしむるもの幾回なるを知らず。

五月二十日 晴，熱氣如烘。午時七時一行五人及び村山氏と轎を聯ね杭州に向ふ。新馬頭を經て杭城武林門に至る。十余清里の間人家相属す。八時半馬所街の領事館に達す。大河平領事等と談じ九時半大河平，村山兩氏，我一行を導き轎を飛ばして錢塘門を出て内湖に沿ひ靈隱寺に至る。一路樹木鬱々，新緑流るるが如く，流鶯処に囀じ，風趣合ふ可からず。左に湖山を望み，右に北高峯を仰ぎ，十二時靈隱寺に達す。先づ飛來峯の奇を探る。山脚洞を為し仏像を崖上に刻す。又た名人の題詠多し。進で

靈隠寺に至る。寺は北高、飛來兩峯の間に在り、規模宏大五百羅漢有り。清明の時進香甚盛。此処老樹天を蔽ひ清泉淙々幽邃名状す可からず。小亭に坐して休憩し、又た轎を聯て來鳳塔側の高莊に至る。莊は友人高子衡の別業なり。湖山の全景を一目の中に収め形勝の地たり。田田榭に小休止し、且住亭に移り中食す。大河平氏主人たり。齊藤大尉亦來會。三時清波門を入り吳山の第一峯に登る。東は錢塘江を隔てて浙東の諸山を望み、西は眼底に西湖の全勝を俯瞰し、登臨の勝此地を以て第一とす。六時半領事館に帰る。晩食後近隣火有り、指顧の間領事館に及ばんとす。幸にして災を免かる。三更後寝に就く。昨日舟中小詩二首を得、左に録す。

荆吳相接水悠悠，客路平生只任舟，半世風流誰復較，一年兩度入杭州。

歷來年五嶽三江間，遊跡天涯鬢欲斑，客裏無端又為客，夕陽遙認臨平山。

五月二十一日 雨意。午後二時轎に乗り領事館を出て、長岡子爵等と浙江巡撫余聯沅を撫署に訪ひ、談話一時間余にして辞歸。開導學校主任伊藤賢道、野村某等來談。

五月二十二日 晴。午前養正書塾邵章伯綱來訪。十時武備學校總弁陸勉儕より請帖到る、之を辞す。晩武備學堂教習齊藤季次郎より案内有り、長岡子爵等と之に赴き、九時歸る。是日正午本願寺日文學堂に至り伊藤以下諸氏に面し、校内を一覽し、中食の饗を受けて歸る。

五月二十三日 晴。早起、行李を整頓し、大河平領事、山岸倉松、村上正隆、齊藤季次郎等に別を告ぐ。領事館を出て小船二隻を賃し、井手と共に拱宸橋に歸る。十二時達す。長岡子爵は西湖に再遊し、午後四時拱宸橋に歸來せり。大河平、村山、(數文字不明)等來送る。五時開船、歸途に就く。本日をして巡撫余氏より徐承禮、葉壽松の兩人を代理として上海に派遣し、我同文書院の開校式に臨ましむ。

五月二十四日 雨。午後九時嘉興府を過ぐ。船中子爵の経歴談有り。其要に曰く、九歳の時喜連川の養子と為り、十七歳の時脱走し、二十二歳の頃より王事に勤められし顛末を詳説され、頗る聞く可き者多し。其の喜連川に在るや粗衣粗餐に甘んじ、魚肉を食せしは一月中二回に過ぎざりしと云ふ。夜に入りて子爵の謡曲を聴く。十時上海に着し、大東に小憩し、滬報館に歸る。途上詩二首を得たり。

其一

蘇杭殷富冠南邦，到處垂桑樹疊双，湖上青山留鶴夢，一篷煙雨下吳江。

其二

游杭襟上酒痕斑，百里歸舟水幾灣，聽盡吳江一篷雨，依稀殘夢繞湖山。

不在中熊本留守宅，東京熊谷直亮，岡幸七郎，西村天囚，緒方二三等の信到る。

3. 明治 35 年 1 月から 12 月までの日記

この年の日記は 1 年で一綴じになっている。前年 11 月末から上海に滞在して正月を滬報館で迎えた。3 月上旬に漢口に移動するまでに、汪康年、文廷式、姚文藻に会っている他、周善培、丁叔雅、張元齊等に会っている。一緒に会っていることから見て、周ら 3 人は汪らと親しい関係にあったと思われる。上海滞在中に興味を引くこととして、1 月 14 日に東亞同文會本部から、東京に戻って「支那、朝鮮方面の要務を根津に代」わって担当してほしいと言ってきたが、海軍の仕事で急には中国を去りがたいと言って断ったということがある。他には、2 月 12 日に日英同盟の成立を伝える電報に接し(このようなニュースが宗方の下に電報で伝わる手立てがあったということであろう)、同盟を結ぶ目的は「主要な清韓兩國を保全するに在り」と書いているのはおもしろい。また、以前から付き合いのある岡田兼二郎が病気で亡くなり、3 月 2 日に日本墓地に埋葬したと記している。この上海の日本人居留民専用墓地は、明治 6 (1873) 年に日本領事館が馬車路に土地を購入して建設したもの(陳祖恩『上海に生きた日本人』、大修館書店)で、宗方がそこに出自していることはそれまでの日記にも何度か書かれている。

3 月 10 日に漢口に着くと、翌日には広東人張玉濤、張兩泉と会っている。うち張玉濤とは単独ある

いは他の広東人と一緒に何度も会っているのが目を引く。また3月25日には、末永と漢口日本人協会の規約を定めたとある。これも当地在住日本人に関する情報としては貴重である。さらに、3月31日には高山公通と金子新太郎が訪ねてきて4月初にかけて連日のごとく会っている。2人は「貴州の聘に応じ赴く」途中に漢口に寄ったもので、うち金子は、辛亥革命勃発後まもなく陸軍少将宇都宮太郎の密命を帯びて予備役の身で武漢に向かい、革命軍に参加して戦死した人物である。4月から5月にかけては、明治29（1897）年に宗方が河南省光州に出向いて中国改革について語り合った胡慶煥が訪ねてきて数回話をした。胡と会うのは河南で会って以来であるが、この時までに胡の関係者が数回訪ねてきて会っているから、関係はずっと続いていたことが分かる。また湖南の王先謙とは6月、7月の記述で手紙のやり取りをしていることが知れる。その後7月26日に西郷従道が17日に亡くなったことを知り、宗方を最も理解し支持してきた陸軍の元勲に哀悼の言葉を綴り、8月18日に日本に戻ってそのまま日本で年越しを迎えた。日本でも繰り返し獵に出かけている。

ここで、明治35年の入金状況を見ると、海軍嘱託手当では、2月から4月までが315、70円、5月から7月が400円、8月から10月は金額の記載はなく、11月から翌年1月は400円である。また東亜同文会の支部長手当では、10月までは70円、11月、12月は60円を受け取ったとある。

最後に海軍あて報告の号数と日付を日記から拾うと、次の通りである。

1月23日—第112号、1月24日—第113号、3月5日—第114号、第115号、3月19日—第116号、第117号、4月6日—第118号、日記には「報告を發す」と記すのみ、4月24日—第120号、日記には「報告」と記すのみ、5月13日—121号、日記には「報告を發す」と記すのみ、5月31日—*第125号、7月12日—第127号、第128号、日記には「報告を發し」と記すのみ、8月9日—「報告二部を送る」と記すのみ。なお、上海社会科学院歴史研究所図書室所蔵資料から、同年6月14日に報告第129号、「和局後の政治」があることがわかるが、『宗方小太郎文書』によれば、7月12日に第127号、128号が書かれているので、日付けがこのままでいいかは確認する必要がある。あるいは、6月14日に書かれたとする「和局後の政治」は第126号である可能性がある。

明治三十五年正月元日起

日記

正月元日 晴。上海四馬路同文滬報館に迎年す。午前領事館に至り御聖影を拝し、去て知人の家を歴訪して正を賀す。午後高昌廟同文書院に至り賀年、三時帰る。朝来賀客跡を絶たず。熊本留守宅、大江、河口、田中、奥村、米原、井芹、佐々、藤本、松倉、山田、毛利、山根、土屋、菅井、徳久、伊瀬地、丸山、谷口、岡崎、亀井、島田、古川、山内、宮崎、緒方、清藤、井口、安富、下田、志水、津野、永原、岡本、深水、莊村、井手、近衛、長岡、松平福、大原、久米、柳原、木野村、岡、橘、遠藤喜、遠藤留、亀川、佐々干、古閑、守田、内藤儀、内藤虎、古城、池邊吉、村山、岸、大河平、齊藤季、漢口東肥、漢口領事館、二橋、大瀧、同文会、安原等の知人に賀状を發す。井手、山根、山内の信到る。

正月二日 快晴。吉田順藏、実相寺貞彦、西田、上田、白石大尉等来り正を賀す。余是日より木葉会員八人と蘇州に遊獵せんとす。午後行李を收拾す。午後五時大東碼頭に至り船に上る。同行者は横田、稲村、西村、深澤、岡田、香月、関及び予の八人なり。

正月三日 晴。午前八時半船蘇州に達す。直に上陸、石湖の獵地に向ふ。半日の獵、獲る所僅に鳩一羽と小鳥八羽のみ。夜船を横塘鎮に停め之に宿す。

正月四日 晴。午前六時上陸。上方山の東麓に獵す。是日余午前に於て鴨一羽、鳩十三羽、小鳥二羽を獲、正午携ふる所の弾薬尽く疾駆して船に帰り、再び弾薬を装填し獵区に帰り、五時迄に鳩六羽を

獲。是日終日の獲る所鳩十九羽，鴨一羽，小鳥二羽たり。晩船に帰りて各獲る所を較す。余第一たり，関第二たり，西村第三，其他の諸人獲る所各差有り。

正月五日 晴。前六時再び上方山に獵す。鴨一羽，鳩一羽，小鳥一羽を獲。午後一時蘇州大東に帰り，五時原船に乗じ上海に向ふ。是日所獲の最も多きは関にして，其次は西村，余第三たり。

正月六日 晴。午前六時船上海に達す。直に上陸，帰寓。漢口橋三郎來訪。岡より同文会正月分手当を送り来る。亀川，大河平，岡，橋，尾越，木野村，遠藤，浅井，久米，白石，河口，永原，山田珠，松倉，村山，津野，秦，緒方，逸見，佐野，岡次郎，多田，中島裁，門池，福井，野村，木下，松田，牧卷，末永，齊藤国，渡部，葉室，上野寅吉，並に内田岳父，内人の年賀状到る。夜獵友八人岡田の寓に於て会食す。十時散ず。

正月七日 晴。逸見，佐野，葉室，渡邊，多田，上野，福井，牧，松田，末永，齊藤，岡，中島，門池，野村，木下等に答へ，並に中島雄，福嶋安正に発信。武昌柳原，門司竹下の賀状到る。永井久一郎，武藤，福島安正に発信。夜館中一同並に橋等と豊陽館に会食す。

正月八日 晴。高橋謙，大原武慶，内田友義，廣瀬貞治，江崎嘉蔵，上田小三郎，大森松四郎，二橋季男等の年賀状到る。午後根津一を同文書院に訪ひ，五時帰る。

正月九日 晴。高橋，江崎，上田，大森，廣瀬，瀬川，草場等に発信。中村兼善，白岩龍平來訪。

正月十日 晴。午後橋三郎，横田三郎來訪，共に出て聚豊園に会食す。

正月十一日 晴。朝白岩，橋を訪ひ其の帰国を送る。午前十時館内諸子と船を賃し鳳凰山に遊ぶ。夜六時泗涇鎮に達す。

正月十二日 晴。終日鳳凰山に獵し，実心竹一竿を載りて船に帰る。六時鳳凰山下を發し，終夜行船。

正月十三日 晴。午前十時船上海に達す。中村，狩野，根岸，平岡諸人來訪。岡崎，松平，牛島，篠原，大瀧，松元鶴熊，古谷，松原，香坂，岸等の年始状到る。

正月十四日 晴。午前中村，狩野，柴田來訪。午後姚文藻を訪ひ，去て虹口に至り髪を理し，去て稲村を訪ふ，在らず。根津と豊陽館に赴き研究所時代の学生数人と会食し，十時帰る。同文会本部より余に東京に在て支那，朝鮮方面の要務を根津に代はりて弁理せん事を依頼し来る。蓋し根津幹事を辞するを以てなり。予，軍令部との関係，俄に清国を去り難きを以て之を辞す。

正月十五日 晴天。古城，原，中谷，土屋，尾越，小室，小川，丸山，前田，七里諸人の信到る。夜白石五郎來訪。

正月十六日 半晴。午前深澤，岡田，狩野來訪。午後汪康年，文廷式等を訪ふ。晩根津の招宴に聚豊園に赴き，九時帰る。荒井來談。

正月十七日 陰。軍艦吉野に在る白石に致書し，別に熊本留守宅に発信す。出て榎原孫蔵，大日方，土居等を訪ふ。天津白須，堺，熊本井手，漢口岡に発信。又た小川，小室，原，尾越等の年賀に答ふ。

正月十八日 晴。池邊吉，島田，武藤虎，毛利，松倉，平山，岡，金島，宇野，岡村，大杉，國府種徳，牛島，板井等の信到る。午後江湾附近に獵す。鳩一羽を獲。

正月十九日 晴。日曜日。是日木葉会の例会日たり。午前五時半和楽里に会し，龍華方面に向ふ。午後六時帰る。鳩九羽，小鳥三羽を獲，余の獲る所を以て最上とす。

正月二十日 微雨。榎原，姚來訪。晩木葉会員と和楽堂に会食す。

正月二十一日 晴天。岡，板井，牛島，岡村，國府，大杉，宇野，金島，平山等に復書し，別に二口美久，文廷式，汪康年に致書す。

正月二十二日 微雨。午後西田龍太，上田賢造來訪。落合為誠の信到る。

正月二十三日 陰。海軍々令部より二，三，四，三ヶ月分の手当金を送り来る。軍令部に百十二号報告を發し，副官に金子領収証を送る。午後岡田，堀來訪。金島文四郎來訪，本日出發四川に赴くと云ふ。因て一書を作り，徳丸作蔵に紹介す。晩金島を訪ふ。守田愿，内藤湖南，田鍋安，近衛公，徳久恒

範，工藤常三郎，亀井英，高木正雄，米原繁，同文会本部，森永卯，田中清，岡，瀬川浅之進の信到る。

正月二十四日 陰天。海軍々令部に第百十三号報告書を發す。高木正雄，工藤常の來書に答ふ。早起館員一同と龍華寺附近に獵す。鳩三羽，小鳥五羽を獲。

正月二十五日 微雨。寒氣頓に加ふ。安富喬の信到る。夜西澤公雄來訪。狩野來談。

正月二十六日 晴天。日曜日。詰朝西郊に獵す。鳩四羽を獲。夜中村來訪。

正月二十七日 微雨。山田純三郎，狩野直喜來訪。午後西澤を訪ふ，在らず。櫛原，大日方等を訪ひ小談，歸る。

正月二十八日 陰天。午前西郊に獵す。藤本親信，古川権九郎，二口美久の信到る。戸田義勇來訪。

正月二十九日 晴。午前西郊に獵す。鳩六羽を獲。狩野，中西來訪。東京安原金次，柴田，熊本留守宅の信到る。水野梅暁，中西耕一來訪。

正月三十日 晴。西村天囚來訪。岡幸七郎，深水十八の信到る。午後櫛原，岡田，戸田等を訪ふ。夜横田，関を訪ふ。

正月三十一日 雨。岡，藤本，橘に復書す。夜雪。

二月初一日 夜來の雪深寸許。是日木葉会第五回の例日たり。午後四時結束大東公司に至り，船に乗ず。同行六人，西村天囚，稲村新六，横田，深澤，関及予なり。五時開船，崑山縣に向て發す。

二月初二日 晴天，寒威料峭。午前四時船崑山の附近に達す。七時上陸。六時船に歸る。予鳩五羽，小鳥六羽を獲。所獲の数，予第一たり。

二月三日 晴。午前六時上海に達す。中島雄，福島安正の信到る。

二月四日 晴。午前西郊に獵す。稲村，関同行たり。正午歸る。戸田義男來訪。夜篠崎，井原，狩野等を訪ふ。佐原來訪。

二月五日 晴。午前正金銀行に至り，海軍々令部よりの手当金三百十五円七十銭を受取り，当座預けとす。郵船埠頭に至り山崎桂，菊池謙次郎を迎ふ。正午横田と山崎の寓，松崎洋行に至り中食し，談話時を移して去り，西村，岡田，香月，荒井等の寓を訪ひ，三時歸る。熊本留守宅，岡幸七郎，白須直の信到る。夜松田満雄，狩野直喜來訪。

二月六日 晴天。午前西郊に獵す。獲る所無し。午後松本亀太郎來訪，福州より陸路江西を経て來着せる者なり。菊池謙二郎，狩野直記，趙從蕃來訪。夜山崎，柏原，松本，松田等を訪ふ。

二月七日 晴。木造高俊來訪。天津白須直，日本安原金次，軍令部遠藤に報告を發す（鉄道線路図）。熊本留守宅に發信，並に松田満雄に托し卵並に菓子を送る。夜松田を招き晩食す。

二月八日 晴。是日陰曆元日たり。午前柏原文太郎を訪ひ，去て西京丸に至り松田，松本，柏原，木造等の歸国を送る。午後姚文藻を訪ひ正を賀す。夜狩野，中西來宿。井手三郎の信到る。

二月九日 晴。詰朝狩野，篠原，井手，中西等と龍華に獵す。鳩二羽，小鳥五羽を獲。

二月十日 晴。晩狩野，中西を招き会食す。

二月十一日 晴。紀元佳節たり。東京根津一の信到る。上田列來訪。

二月十二日 晴。午後鑄方，大原を迎ふ。晩横田，深澤等の寓に晩食し，去て鑄方，大原等を訪ひ，十一時歸る。是日日英同盟成立電報に接す。共に主要は清韓兩國を保全するに在り。

二月十三日 晴。河野，佐原來訪。津川第五聯隊長に雪中行軍の慘事に対し見舞狀を發す。漢口片山に致書，其の女兒の夭折を吊す。夜文廷式來り辞す。本夕より江西に赴くと云ふ。夜文廷式を訪ひ，其行を送る。篠崎を訪ひ，狩野と西村天囚を敲き，転じて荒井，岡田等に会し，十時歸る。

二月十四日 晴。池邊，岡に覆書す。夜狩野を訪ひ，十時歸る。岡本源次の信到。

二月十五日 晴。午後狩野，岡田來訪。

二月十六日 晴。禱食。岡田，香月，井手，篠原等と龍華に獵す。鳩二羽を獲。

二月十七日 晴。佐原来訪。午後狩野来訪。夜篠崎の招宴に赴く。来会者岩崎、立花、竹崎、狩野、関及予なり。十時帰る。

二月十八日 晴。岡山源六。四川周善培来訪。根岸、山田、中村来訪。

二月十九日 陰。夜岡田、荒井列を訪ふ。

二月二十日 晴。朝上田、安河内来訪。午後中村、逸見来訪。晩周善培の招邀に杏花楼に赴く。汪康年、西村、中村、丁叔雅、張元濟来会。十時散ず。

二月二十一日 晴。午前戸田義勇来、別を告ぐ。午後西村天囚を訪ふ。稲村在焉。三人晩食を共にし、去て岡田、荒井、篠崎等を歴訪して帰る。

二月二十二日 晴。午前戸田、磯田の帰国を送る。午後同文書院に至り菊池の処に寛談し、晩食後月を踏で帰る。

二月二十三日 微雨。午後菊池来訪。夜狩野を訪ひ、十時帰る。

二月二十四日 雨。岡、村上正隆、平原文三郎、佐々友房諸氏に発信す。漢口岡、横浜亀雄、天津白須の信到る。安原、亀雄に返書す。張元濟菊生来訪、文質彬々有志の士なり。夜吉田順蔵来訪。

二月二十五日 晴。午前河野久太郎来り、昨夜荒井甲子之助、和楽里に病没せるを報ず。余之が為に哀悼措かず。荒井為人高雅卓落、酒を好み詩を善くす。口訥にして言ふ能はざる者の如し。亦気節の士なり。午後鈴木恭堅来訪。二時豊陽館に至り、荒井病死に付き知人と会食す。岡田兼二郎病勢危篤幾んど救ふ可からざる者に似たり。六時帰る。夜又た豊陽館に至り、十二時帰る。東京白岩龍平の信到る。

二月二十六日 陰。午後出て井戸川を迎ふ。狩野、西村を訪ひ小談、去て豊陽館に至り、五時帰る。北京山根虎之助に荒井の死を報ず。

二月二十七日 晴。片山、岡、並に白岩龍平に致書す。余本夕を以て此地を辞し漢口に向はんとす。事を以て次便に延期す。井戸川辰三来訪。午後五時十分岡田兼二郎病死の報に接す。晩豊陽館に至り、十時帰る。

二月二十八日 陰、寒温無常。午後豊陽館に至り、五時帰る。

三月初一日 陰。亀雄、高山公通、牧卷次郎等に発信す。午後豊陽館に至る。岡本武平の信到る。

三月二日 晴。午前岡田兼二郎を日本墓地に葬る。夜香月梅外等を鼎升に訪ふ。片山敏彦の信到る。

三月三日 陰。独逸鳥居赫雄、東京白岩龍平に致書す。井戸川辰三を訪ひ其の重慶行を送り、徳丸作蔵に添書す。中村来訪。

三月四日 晴。隠岐、狩野来訪。熊本留守宅の信到る。

三月五日 晴。熊本留守宅、緒方二三に発信、並に軍令部に第百十四号、百十五号報告を發す。朝埠頭に至り井手、島田、松田等を迎ふ。井手、島田来らず。帰途理髮して帰る。午後根岸、西田、上田、河野来訪。夜松田夫婦来訪。

三月六日 晴。東京同文会に報告を發す。午前張元濟、姚文藻、松田、中知、晴氣、狩野、篠崎、久米等を訪ふ。久米の処にて中食し帰る。余是日啓行漢口に赴かんとす。午後行李を戒む。久米来訪。晩滬報館の招飲に一品香に赴く。六時大貞丸に乗ず。篠原、井手、牛島、山田、中知、根岸、森等来り送る。晴氣市三同船たり。談深更に至り就寝。

三月七日 陰。夜八時鎮江に達す。九時開船、行少許濃霧の為に阻けられ行進する能はず。碇泊四時間許。

三月八日 快晴。正午蕪湖に達す。晴氣と上陸、長街を過ぎ城内に入り壁に沿ふて左折し、北門を出で龍潭の曲堤を歩し、二時船に帰る。直に開船、夜十時晴氣に別れ寝に就く。晴氣今夜深更安慶に上陸するを以てなり。

三月九日 快晴。春色可人、船頭一望茱萸綠夢有晩春之趣。午後三時達九江、三時二十分開船。

三月十日 晴。午前八時船漢口に達す。井戸川、岡、白石等来迎。余長江を上下する此次を以て二十九回とす。午後領事館に至り山崎、古谷、松平等を訪ひ、去て郵便局を一訪して帰る。夜東肥を訪ふ。

三月十一日 晴。午後張玉濤、張雨泉、片山、白石等来訪。楊子荃来訪。

三月十二日 快晴。熊本留守宅に金四十円を郵便為替にて送る。外に大阪緒方、上海滬報館諸人に寄書す。山崎領事来訪。上海西村時彦、杭州村山正隆の信到る。張玉濤より明日招飲の請帖到る。之を辞すれども可かず、即ち之に応ず。

三月十三日 晴。四時半寓を出で東肥に至り、白石を伴ひ武昌賓陽門外の沼地に至り鴨を猟す。予鴨四羽、鶺鴒一羽を獲。正午武備学堂柳原、木野村等を訪ひ、二時半帰る。五時広東張玉濤の招請に熙泰棧に赴く。会する者十四人、饗応具に到る。宴半にして張玉濤起て日清両国語を以て招待の詞を述ぶ。予も亦一場の挨拶を為し同文会創立の主意を陳す。十時席散ず。是夜来会せる広東人の重なる者は韋紫封、鄧記常等なり。

三月十四日 晴。夜二橋季男、片山敏彦来訪、之を留て晩食す。

三月十五日 積陰。午前張寿波玉濤を益豊に訪ひ、去て東肥に至り、帰途福島を長樂里に敲き、正午帰る。夜山崎、桂来訪。十時東肥に至り宿す。

三月十六日 晴。午前四時江を渡り武昌賓陽門外に至り猟す。鴨一羽、鶺鴒二羽を獲。午後帰る。東肥にて晩食し、九時帰寓。松本及び重慶帰来の一人来訪。留守中鑄方德蔵、柳原又熊来訪せりと云ふ。

三月十七日 晴。峯村来訪。夜領事館を訪ひ、十時帰る。亀雄の信到る。

三月十八日 晴。内田、大瀧来訪。

三月十九日 晴。華氏八十二度。海軍々令部に第百十六、百十七両号報告を發す。内田来訪。広東人張玉濤来訪、寛話時を移して去る。内田の帰国を大亨丸に送る。夜に入りて大雷雨。白岩龍平東京よりの信到る。

三月二十日 陰。四川井戸川辰三並に宮坂に発信す。

三月二十一日 雨。寒威凜然、寒暖計大に降る。夜末永一三来談。

三月二十二日 雨。寒氣頗強、寒暖計四十七度。三日前と三十五六度の差有り。晚商船会社末永の招飲に赴く。十時帰る。

三月二十三日 雨。午後鑄方德蔵、太原武慶来訪。共に出て一品香の宴に赴く。太原、平尾両大尉並に峯村の帰国を餞する也。三時席散ず。商船会社より丹桂茶園に觀劇の案内有り、之を辞す。

三月二十四日 雨。篠崎都香佐並に岡山源六に発信す。午後大吉丸の船員山本某の葬を武昌城外の洪山に送る。午後六時帰る。熊本留守宅、井手三郎、高橋謙、橋三郎、同文会の信到る。井戸川辰三四川途上よりの信到る。井手より近衛公の言を伝へ予の歐洲行を勸む。山崎桂、二橋季男、末永一三来訪。留守宅より谷口叔母本月十二日午後病没の事を報ず。

三月二十五日 半晴。近衛公に歐洲行の事に付き一書を發す。井手に復書す。午後山崎、片山等を訪ふ。夜末永一三来訪、共に漢口日本人協会の規約を定む。

三月二十六日 晴。藤澤来訪。東京久米徳太郎、重慶徳丸作蔵の信到る。久米、高橋に覆書す。宇土谷口長三郎に吊詞を致し叔母君の没を唁す。

三月二十七日 晴。午前江を渡り武昌に至り鑄方德蔵を紡紗局に訪ひ、中食後共に出て武備学校に至り平尾、大原列を訪ひ、五時鑄方と共に帰る。

三月二十八日 陰。朝高山公通、金子新太郎両人の添書を持し某々二書生来訪、之を東肥に宿泊せしむ。高山等は途中安慶に立寄り近日中来漢すべしと云ふ。海軍々令部の報告、領収証到る。午後福島を訪ひ、去て東肥に至り晩食し、十時帰る。雨。

三月二十九日 雨。軍令部遠藤喜太郎に発信す。午後片山来訪。十二時帰る。

三月三十日 午前晴、午後雨。末永、二橋、吉田永二、片山来訪。三時出て山崎の病を問ひ暮時帰る。

佐々友房氏の信到る。

三月三十一日 微雨。詰朝出て高山公通、金子新太郎等の来漢を迎ふ。両人は貴州の聘に応じ赴く者なり。午前高山、金子二人来訪、相携て領事館を訪ひ、正午兩人を拉し来りて中食を共にす。篠原邦威亦本日をして来着、湖南に赴く者なり。狩野直喜、独逸鳥居赫雄、松田満雄、安徽胡天然等の信到る。

四月一日 陰。午前高山、金子、浅井等来訪、之を留て中食を共にす。午後小越平陸四川重慶より来着。夜福島来談。

四月二日 陰霾。軍令部遠藤氏に発信、河南泌陽の変乱を報ず。上海井手、狩野に復書す。午後福島の外に至り入浴す。胡天然の信到る。

四月三日 陰霾。午前末永来訪。夜東肥に至る。木野村来訪。

四月四日 晴。午前高山公通来訪。午後金子新太郎、福島等来訪。本夜小越平陸上海に下るを以て小酌其行を送る。金子留宿。井手友喜、深水十八、緒方二三の信到る。河南泌陽の匪勢猖獗、桐泊以下の四県を占領せりと云ふ。張之洞は德安、襄陽の兵を派して赴援せしめたり。夜領事を訪ふ。金子来り宿す。

四月五日 雨。片山、金子、木下来訪、之を留て中食す。是日午後篠原湖南に赴く。熊本留守宅並に橋三郎の信到る。

四月六日 微雨。海軍々令部に報告を發す。外に緒方二三、橋三郎に復書す。高山公通、金子新太郎等本日上船、四川を経て貴州に向ふ。因て一行に托し重慶井戸川辰三、徳丸策三に致書す。山崎桂、高山公通、金子新太郎、香坂政治、峯村、白石等来訪。亀雄の信到る、之に復す。夜高山、金子、峯村等の入蜀を大元丸に送る。久米に発信。

四月七日 微雨。東京佐々友房、牛莊深水十八二氏に復書す。楠孝吉来訪。夜東肥に至り理髮す。

四月八日 陰。楠、末永来訪。

四月九日 雨。楠来訪。夜張玉濤来訪。

四月十日 陰。是日洋街の寓を挙げ河街の東肥三層樓に移る。

四月十一日 晴。夜来心気不佳。厦門平原文三郎、福岡岡未亡人、武昌王司直の信到る。張玉濤より一品香に招飲、予病を以て辞す。晡時張来訪。

四月十二日 陰。王一清来訪。露国阿部野利恭、北海道工藤常三郎、上海山田純三郎に復書す。末永一三、平尾二郎来訪。

四月十三日 晴。朝武昌賓陽門外に獵す。小鳥六羽を獲。午時柳原の外に飯し、木野村を訪ひ三時帰る。夜山崎を訪ふ。

四月十四日 雨。上海白岩龍平、井手、熊本留守宅並に緒方二三、軍令部の信到る。

四月十五日 雨。張玉濤来訪。僕胡順の父死す、之に八円を給す。

四月十六日 雨。熊本留守宅、山田珠一、遠藤喜太郎、井手、白岩に致書す。上海狩野直喜、東京同文会の信到る。会より四月分手当を送り来る。

四月十七日 雨。夜片山来談。

四月十八日 快晴。故荒井凶南の為に金五円を白岩の外に送る。午後二橋を訪ひ、去て松本を敲き、共に出て郊外に散歩し、晩大瀧八郎の外に至り会食し、十時帰る。東京遠藤、上海白岩に発信す。旧藩主細川行真子爵の薨を聞き、吊詞を發す。

四月十九日 陰。午後片山来訪。夜山崎桂来訪、深更辞去。

四月二十日 微雨。朝篠原湖南より帰来。午前平尾二郎、水間春明、柳原又熊来訪。午後岡、篠原と鑄方を訪ひ、夜に入て帰る。

四月二十一日 晴。上海篠崎に発信す。東亜同文会に四月分支部費の領収証を發す。夜張玉濤来訪。

四月二十二日 雨。平尾二郎来り辞す。本日より帰国すと云ふ。夜鄧錫三、張玉濤、片山等来訪。平尾、藤澤等の帰国を大貞丸に送る。

四月二十三日 陰。夜香月梅外、福島豊太郎等来訪。

四月二十四日 雨。海軍々令部に報告、並に東亜同文会に通知書を發す。是日岡と一船を賃し大冶県に遊ばんとす。午後二時半船に上らんとす。門前に於て河南胡慶煥の来訪せるに会す。一昨日光州より来着せりと云ふ。之を楼上に引き茗話時を移し、再会を約し船に上る。四時開船、六時拱口に泊す。行程四十里。夜大雷雨。

四月二十五日 夜来の雨覆盆の如し。八時開船。午後三時半黃州赤壁の下を過ぐ。四時半武昌県属の樊口に泊す。行程百五十里、山陵起伏、江干茅屋參差相連る。古詩に武昌樊口絶処、東坡先生留五年、即此地。

四月二十六日 陰。五時樊口を發し武昌県城を右岸に望む。城西に一山有り西山と名く、県の勝概なり。七時半巴河を左岸に望む。長江水師の砲船多く、此に泊す。一水此より蘄州に通ず。正午石灰窯に達す。松田氏来り迎ふ。上陸、松田の寓に投ず。雨。夜製鉄所出張所員及松田氏より饗応有り。

四月二十七日 雨。午前四時杉浦重剛を迎ふ。西澤公雄、岩田、石渡某等同じく来る。午後三時岡氏と雨を衝き黄金山の瀑布を觀る。道路泥濘、行歩頗艱む。五時半帰寓。

四月二十八日 雨。午後二時十五分杉浦、西澤、岡、石渡、岩田等と特別汽車に乗り、鉄山に向ふ。行く少許李家坊停車場を過ぐ。茅屋三十一、山有り高一千尺、岩骨嵯峨石灰石より成る。二十七里下陸に至る、人家三十余、此地を中央停車場とす。小規模の鉄工場有り。器械の修繕を為し兼て鉄器を造る。此処にて鉄山より石堡に運送する礦石を秤量す。又行十七里半、得道湾に至る。人家四十、停車場有り。一支線有り、獅子山の鉄窯に通ず。距離三清里。又行七里半、鉄山舗に達す。人家十余戸、此を鐵道の終点とす。目下此地の鉄礦を措き専ら獅子山に採る、銅分を含蓄するの多きを以てなり。礦務局有り、総弁解茂承(号研珊)出て一行を迎へ歓待す。独逸の技師ヒリツブ此に居る。茗話一時間辞して汽車に上り、道を枉て獅子山下に至り、車上より鉄礦採掘の状を見る。満山皆鉄骨、附近製鉄の必要材料たる錳鉄、石灰を出す。鉄山の近傍丘陵三坐有り、皆鉄滓より成る。其量約計七千万噸、宋代冶鉄の余燼を堆積せるものなり。燼中尚五分の鉄を含む。独逸にて一噸六円の価値有りと云ふ。六時半石堡に帰る。石堡より鉄山に至る二十英里、道の左側山嶺起伏、全山皆石灰石なり。右側の連山は皆鉄と錳鉄とを出す。此辺一帶二十五方哩、鉄、錳、石灰を以て地盤を構成するものなり。晩杉浦等と西澤の処に会飲し、十一時散ず。

四月二十九日 快晴。午後杉浦、西澤列より舟遊の案内有り、辞す。二時西門子と黄金山の飛雲洞に遊ぶ。唐代の古跡なり。三層樓に上る。道士王万徳なる者芳茗を侑め、洞の歴史を語る頗る詳。龍洞、雲洞、風洞の三洞頗る深し。龍洞より清泉流出。百尺の懸崖に注下し、一条の瀑布と為り白布を引くが如し。道士諸勝を指導し、歓待頗至る。龍洞は唐時蛟龍騰天の処なり。壁上一詩を留題し、盤桓時を移し山を下る。五時帰寓。夜杉浦重剛の南下を送る。

四月三十日 朝晴、午後雨。夜坂、橋本、田中等来訪。

五月一日 雨。午後西澤等の処に至り辞別。五時松田氏を辞し船に上る。西澤、橋本、田中、坂、松田等来送。六時黃石港に達し商船会社洋棚に休憩、大貞丸の来るを待つ。八時大貞に乗り漢口に向ふ。船上菅了法へ邂逅す。佐々友房、井手両氏の添書を交付す。

五月二日 晴。午前七時漢口に達す。午前菅了法と領事館を訪ふ。午後菅、緒方と鑄方を訪ひ、晩食後帰る。海軍軍令部より五、六、七、三ヶ月分手当四百円を送り来る。外に廈門平原少佐、上海山田、篠崎、軍令部、熊本松倉の信到る。

五月三日 晴。領事館を訪ふ。胡慶煥より茶腿並に春茶二瓶を贈り来る。午後胡氏を高陞棧を訪ふ。小田切領事、日置書記官等来訪。夜小田切等の下江を大貞丸に送る。大雨滂沱、衣袂尽く濡ふ。上海白

岩の電報到る。土地買入の事を依頼し来る。上海牛島、香月、熊本平山岩彦に発信す。片山来宿。

五月四日 晴。午前末永一三、井原等来訪、之を留て中食す。午後緒方、岡と江を渡りて武昌に獵す。湖中にて水鶏二羽を獲、五時帰る。東亜同文会本部より五月分支部費を送り来る。胡慶煥に魚翅宴席一抬を贈る。

五月五日 晴。夜山崎、末永等を訪ひ、十一時帰る。

五月六日 晴。海軍軍令部細谷資氏に発信し、並に安保副官に手当金の領収証を送る。別に同文会に支部費の領収証を発送す。上海篠原、福島の信到る。鑄方徳蔵来訪。

五月七日 陰。風大。心気不舒。上海白岩、稲村新六、熊本内田友義の信到る。

五月八日 陰。東京久米徳太郎の信到る。菅了法来訪、近日湖南に赴くを聞き、王先謙に紹介状を与ふ。

五月九日 雨。朝根津一、湯原元一、成田某来着。午後根津等一行を伴ひ武昌に渡り鑄方の寓に同居せしめ、晩食後辞帰。江荒れて船無く徒歩武勝門外に至り、漸く一船を得て帰る。内田友義、久米徳太郎、宗方儀吉の信到る。杉浦重剛より和韻の詩を送り来る。

五月十日 雨。午前胡慶煥等を高陸棧に訪ふ。正午胡氏来訪。午後西澤来訪。熊本内田友義並に留守宅に発信す。晩西澤、加藤等を招き晩食す。夜西澤、胡慶煥等を大亨丸に送る。西澤に托し石堡橋本等に致書し、並に牛肉を贈る。金島文四郎四川より帰り、井戸川辰三の信を交付す。山崎桂、角田隆四郎来訪。角田は昨日来着せるもの也。

五月十一日 晴。朝二橋季男来り、仏蘭西ホテルに晩餐の案内有り。事故有りて之を辞す。午前緒方、白石と漢陽に至り、月湖に獵す。転じて馬家湖に至る。余水鶏五羽、鷺二羽を獲、二時帰る。

五月十二日 晴。東京平原文三郎、松倉善家、稲村新六に発信す。大坂井口、横浜亀雄の信到る、之に復書す。午後緒方と武昌に渡り根津一等を訪ふ。六時帰る。湯原元一の為に北京中西、中島、天津白須に紹介状を与ふ。

五月十三日 雨。海軍々令部細谷資氏に報告を發す。山崎桂来訪。

五月十四日 晴。海軍々令部に報告を發す。上海正金銀行長鋒郎に軍令部よりの為替金三百三十八円余を郵寄し、別に預金帳を送り、以上の金額を記入せん事を依頼す。四川井戸川辰三に書留郵便を發す。水間大尉来訪。正午山崎桂の招飲に領事館に赴く。五時帰る。

五月十五日 晴。海軍々令部に報告を發す。午前根津一、鑄方徳蔵、成田與作、菅了法来訪。

五月十六日 晴。詰朝緒方、岡と出て三菱の若松丸に至り、朝食後坂本船長及び機関士某と武昌鮎魚套附近に獵す。午前余江鶏一羽、水鶏一羽、鷺一羽獲。午後武昌の東湖に獵す。余江鶏一羽、水鶏二羽、鷺三羽を獲。晩根津、菅了法、成田與作、鑄方、山崎桂、末永等を一品香に饗す。八時席散ず。

五月十七日 微雨。夜若松丸の招邀に赴く。会する者山崎桂、二橋、大瀧、福井、松平、古谷、緒方、長安、角田及び余なり。八時帰る。河南又た不穩を報ず。張之洞は武健右旗四營（約一千二百人）を去十五日襄陽方面の警備に向はしめんが、同日兵士の逃亡せしもの四百人に及べりと云ふ。

五月十八日 雨天。海軍々令部に通常信を發す。熊本河口介男の信到る。其妻男子を分娩せりと云ふ。午後岡、中島と武昌に獵す。予水鶏六羽を獲。

五月十九日 晴。内田某、角田来訪。根津、鑄方、菅等来訪。晩商船会社角田、末永の招邀に大亨丸に赴く。九時帰る。柳原又熊、岸等来訪。

五月二十日 晴。午前根津、成田、菅来訪。午後菅了法の湖南行を送る。晩根津の招邀に大亨丸に赴く。八時根津に別を告げ、鑄方の案内にて張彪、片山、二橋、角田、緒方、山崎等と丹桂茶園に劇を観る。熱気烘るが如し。十時帰る。張彪より東海筵賓樓に夜飲の招きを受けしも辞して帰る。

五月二十一日 晴。橘三郎、莊村秀雄の信到る。末永一三来り別を告ぐ。本夕を以て帰国する者なり。夜末永を大亨丸に送る。上海井手、篠原、牛島に発信す。岸衛、吉永勘次、亦本夕の船にて上海に下

る。

五月二十二日 晴。詰朝岡、白石と武昌に猟す。九時帰る。余江鷄一羽、水鷄六羽、小鴨一羽を獲。夜片山来訪。

五月二十三日 晴、熱甚。

五月二十四日 晴。独逸鳥居赫雄の信到る。文廷式来訪、昨夜着せりと云ふ。

五月二十五日 晴。日曜日。詰朝漢陽に猟す。江鷄一、水鷄一を獲。風大に起る。正午帰る。留守中文廷式来訪せりと云ふ。四時文廷式を問津輪船に訪ふ。本夕湖南に赴くと云ふ。佐々友房、村山正隆、香坂政治、宝妻寿作、長鋒郎の信到る。

五月二十六日 晴。佐々友房、香坂、村山、勝木、宝妻、莊村等に復書す。外に西郷氏に致書し其病を問ふ。角田隆郎来訪。午後片山、瓜生震、松木、松本、内田、大瀧、田中、東郷、藪田等来訪。内田の重慶行に托し井戸川辰三並に貴州高山公通に致書す。夜内田を送る。山崎桂来談、深更に及で帰る。

五月二十七日 陰。独逸鳥居赫雄、上海長鋒郎に復書す。別に森茂、河口介男に復書す。

五月二十八日 積陰。午後藪田来訪、晩藪田を送る。此人大津の資産家なり。松元鶴熊来談。風大。

五月二十九日 風雨。南京牛島の信到る。

五月三十日 陰。朝橋三郎帰来。井手三郎、松倉善家の信到る。海軍々令部の信到る。午後軍令部細谷資氏、熊本留守宅、平尾次郎、東京同文会の信到る。夜片山来訪。

五月三十一日 晴。海軍軍令部に百二十五号報告並に熊本留守宅、上海井手、牛島、長岡子爵等に発信す。

六月一日 晴。日曜日。詰朝武昌に猟す、余水鷄七羽を獲。午後漢陽に猟す、水鷄二羽を獲。夜山崎、角田等を招き会食す。

六月二日 朝。亀雄の信到る。之に復す。

六月三日 晴。

六月四日 晴。

六月五日 晴。午前武昌に渡り水間春明、吉田永二、美代清彦、大原武慶、木野村成徳、柳原又熊、鑄方徳蔵等を訪ひ、午後五時帰る。鑄方の処にて菅了法の湖南より帰来せるに邂逅す。長沙王先謙の信並に景教碑文一冊を贈り来る。

六月六日 晴。東京同文会より六月分支部費を送り来る。外に軍令部細谷大佐の信到る。上海藪田信吉の信到る。張玉濤、西澤公雄、菅了法来訪。

六月七日 晴。土曜日。橋本、水間来訪。同文会に支部費、領収証を發す。夜菅了法の帰国を送る。

六月八日 日曜日。陰。詰朝緒方、橋、中島と沙湖に猟す、余水鷄十三羽を獲。午前木野村政徳来訪、明日より帰国すと云ふ。松本亀太郎、田野橋治、亀雄、村山正隆の信到る。

六月九日 晴。午後中西、木下来訪。夜木野村の帰国を瑞和輪船に送る。

六月十日 晴。是日陰曆五月五日端陽節たり。僕僮厨房に酒資七元を送る。角田、片山、山崎等来訪。

六月十一日 晴。台北松本亀太郎に復書す。午後大原武慶、鑄方徳蔵来訪。

六月十二日 晴。九十二度。熊本勝木、天津白須、沙市牛島の信到る。

六月十三日 晴。西郷従徳、井手三郎、熊本留守宅の信到る。上海井手、島田、熊本松倉に発信す。外に橋三郎の帰国に托し近衛公、長岡子、佐々氏等に詩箋二匣つつを贈る。午後広東人容翰屏、張玉濤来訪。夜橋の帰国を送る。

六月十四日 晴。片山来訪。夜山崎桂来訪。

六月十五日 詰朝緒方、岡、中島と武昌に猟す。余水鷄五羽、江鷄一羽、鴨一羽を獲。片山、柳原来訪。大坂末永一三の信到る。

六月十六日 雨。四川井戸川辰三，台北松本亀太郎，大坂末永一三，東京田野橋次，亀雄等に発信す。
六月十七日 晴。角田来訪。上海井手の信到る。
六月十八日 晴。僕童陳長命，夜来虎列刺病に罹り死す。上海井手三郎に致書。軍令部に報告を發す。
陳姓の家族に葬費六元を給す。
六月十九日 微雨。王一清，張玉濤来訪。
六月二十日 微雨。上海篠崎の信到る。之に復す。
六月二十一日 微雨。岡本源次，武藤虎太，津野一雄に発信す。午後鑄方を訪ふ。
六月二十二日 陰。詰朝緒方，角田等と沙湖に猟す。余水鷄五羽を獲。帰途驟雨大至り衣袂尽く沾ふ。
六月二十三日 陰。上海井手，東京亀雄の信到る。張玉濤来訪。夜山崎を訪ひ，一時帰る。
六月二十四日 晴。熊本平山岩，橋三郎の信到る。
六月二十五日 微雨。王一清来訪。
六月二十六日 晴。是日英皇戴冠式の期日なりしも不予の為延期せりとの電報到る。王一清の湖南に行くに託し，王先謙に漆器一個，統一学一冊を贈る。午時王一清を訪ふ。根津一の信到る。鑄方徳藏来訪。
六月二十七日 晴。夜山崎，片山，角田列を訪ふ。
六月二十八日 晴。柳原又熊来訪。大森松四郎来り別を告ぐ。本夕より帰国すと云ふ。上海篠原に致すの信を托す。篠原に金五円を送り六神丸買送を依頼す。夜大森を送る。片山来訪。
六月二十九日 晴。日曜日。岡，緒方，中島，角田，吉山，木村等と武昌沙湖に猟す。十一時帰る。余水鷄五羽，鳩一羽を獲。
六月三十日 晴。熊本留守宅，蘇州姚文藻の信到る。亀雄に復書す。是日軍艦愛宕来着。午後之を訪問す。艦長木村浩吉は予の旧知なり。帰途領事を訪ふ。
七月一日 陰天。愛宕艦長木村浩吉来訪。熊本留守宅，上海菊池謙二郎に発信す。
七月二日 微雨。若松丸艦長坂本来訪。
七月三日 晴。上海篠崎の信到る。之に復す。角田，水間，片山来訪。長沙王先謙の片信到る。
七月四日 晴天。詰朝岡を送りて軍艦愛宕に至り，木村艦長に辞別して帰る。途中領事館並に長安を訪ふ。片山亦た軍艦に便乗し本日より湖南に赴き，岡と俱に長沙湘潭常德地方を視察せんとす。夜山崎を訪ひ，十二時帰る。橋三郎，軍令部の信到る。
七月五日 晴。沙市福綱来訪。夜松平の帰国を送る。貴州高山公通の信到る。
七月六日 晴。日曜日。五時角田，緒方，吉山等と商船会社の小蒸気船にて上游の串口附近に猟す。余鳩六羽を獲，五時帰。亀雄の信到る。柳原又熊夫婦来宿。
七月七日 晴。上海篠原，大森の信並に同文会より七月支部費を送り来る。正午柳原夫婦を若松丸に送る。柳原に托し熊本留守宅に金四十円を送る。
七月八日 晴天。亀雄に金十二円を郵送す。上海井手列，並に同文会に支部費領収証並に岡湖南行の届を為す。南京上田賢象，西本有三の信到る。熊本に五十円の郵便為替を為す。東京白岩龍平の信到る。夜山崎桂来訪。
七月九日 陰。上田，西本，松田満雄に致書す。松倉善家に復書す。夜白岩の帰国を送る。
七月十日 陰。上海菊池謙二郎，東京木野村政徳の信到る。
七月十一日 晴。夜松木，長安，角田等を訪ふ。
七月十二日 晴。海軍々令部に報告を發し，並に帰国の事を告ぐ。四川井戸川辰三の信到る。之に復す。角田来訪。牛莊瀨川浅之進に致書，其内人の死を吊す。
七月十三日 晴。詰朝緒方，角田，八木，吉山等と武昌に猟す。獲る所無し。午後三時江を渡りて武昌に至り太原，水間，鑄方等を訪ひ，鑄方の処に晩食して帰る。東京田鍋より故人梶川重太郎北京に於

て自殺の事を報じ来る。梶川は陸軍士官中の傑出にて、英国より帰朝後北京公使館附を命ぜられ、着任後幾くも無く此の凶音に接す。哀悼の情何ぞ堪へん。

七月十四日 晴。午後水間、木下、大原等来り別を告ぐ。楊子荃、張玉濤等来訪。夜緒方、大原、水間、鑄方等の帰国を吉和号に送る。

七月十五日 晴、苦熱九十五度に上る。夜長安、張等来訪。岳州碇泊軍艦愛宕に在る西門氏に信書六封並に新聞紙を送る。

七月十六日 晴、熱甚。東京田鍋安之助、根津一に復書す。

七月十七日 晴、苦熱。上海篠崎、東京亀雄の信到る。大瀧八郎来訪。夜領事の招飲に赴く。十一時帰る。

七月十八日 晴。寒暖計百〇一度。

七月十九日 晴。内田、森来訪。内田は四川に赴く者なり。上海篠原、井手に発信す。夜商船会社、領事館を訪ふ。

七月二十日 晴、熱甚。露国ハトロフカ阿部野利恭の信到る。

七月二十一日 晴雨無定。四川井戸川辰三の信到る。

七月二十二日 陰、雨。夜軍艦愛宕帰着。岡、西門帰来。

七月二十三日 陰、風大。熊本留守宅に帰国の報知を為す。午後山崎、片山を訪ふ。四川徳丸策三、井戸川辰三の信到る。夜愛宕士官四人来訪。

七月二十四日 晴。上海井手、南京上田、熊本橋の信到る。軍艦愛宕を訪ふ。

七月二十五日 晴。角田来訪。

七月二十六日 晴。西郷従道侯本月十七日死去の報に接し、吊詞を發す。元勲中侯尤も我を知り、我尤も侯を偉なりとす。一朝訃に接し悼惜の情に堪へず。四川井戸川、貴州高山、東京根津、鑄方、亀雄、四川徳丸等に発信す。夜東肥の諸人を東海宴賓樓に饗す。

七月二十七日 晴、熱九十六度。夜角田等を訪ふ。是軍艦愛宕出港、江西に向ふ。熊本松倉善家の信到る。

七月二十八日 晴、九十七度。上海白岩龍平の信到る。東京亀雄の信到る。海軍軍令部より八、九、十、三ヶ月分の手当を送り来る。

七月二十九日 晴。夜大利丸船長の宴に赴く。上海白岩の電報到る。

七月三十日 晴、熱甚。海軍々令部に手当領収証並に熊本留守宅、井手、緒方、松倉等に発信す。白岩龍平に発信す。

七月三十一日 晴、熱甚。熊本留守宅、東亜同文会、並に同文会よりは八月分支部費を送り来る。夜領事館、三菱を訪ふ。外出中山崎来訪。

八月一日 晴。是日寒暑表百一度。安慶晴氣市三の信到る。事情有り急に安慶を引上げ帰国するを報ず。東京根津一に発信、並に同文会に支部費の領収証を發す。夜涼風大に起る。

八月二日 晴。夜山崎桂来談。昨来頗る涼味を覚ふ。

八月三日 晴。日曜日。八十四度、涼氣大に催す。

八月四日 晴。山崎桂を訪ひ、十一時帰る。

八月五日 晴。上海井手、武昌楊に発信す。森船長来訪。沙市篠原来着。

八月六日 晴。中島美喜雄、南潯の学校に従事する事となり、本夕此地を發するを以て蘇州領事二口美久並に村山、海津、近藤諸人及び杭州河野、亀川等に添書を与ふ。

八月七日 晴。牛莊瀨川浅之進の信到る。是日下痢三回、体氣稍衰ふ。

八月八日 陰。上海より白岩来着、平野水一箱を贈る。午前白岩来談。夜領事館に山崎、白岩と會す。十一時帰る。

八月九日 陰。海軍々令部に報告二部を送る。午前西澤、田中、加藤等来訪。午後白岩、角田、長安等来訪。晚山崎の招邀に領事館に赴き、八時辞帰。大丸に乗り上海に下らんとす。岡氏同行たり。西澤公雄、龍、木村、浅井、原田、篠原、角田、吉山、武田、田中、長安、吉田以下来り送る。八時半開船。

八月十日 晴。午前七時達九江。三時安慶を過ぐ。余長江を上下する茲に三十回たり。

八月十一日 晴。午前十時南京を過ぐ。午後二時鎮江に達す。岡氏と上陸、北固山の甘露寺に遊ぶ。天下第一江山の題刻あり。盤桓多時人を帰るを忘れしむ。四時船に帰る。夜十一時開船。是日立秋、夜又七夕に属す。天漢如霜、秋意微動、会々先妣三十年忌辰たり。

八月十二日 陰。午後軍艦愛宕に呉淞口外に逢ふ。二時上海に達す。雨。滬報館に投ず。平岡、狩野来訪。

八月十三日 晴。午前渡部正雄、中知秀吉来訪。午後井手、岡と同文書院に菊池等を訪ひ、四時半帰る。大東に至り渡部、遠藤、千葉等を訪ひ、去て篠崎、狩野を敲き帰る。夜井手の招邀に豊陽館に赴く。帰途領事館に横田等を訪ふ。

八月十四日 微雨。午後遠藤、岡本来訪。夜横田三郎来訪。館中諸人と会食す。漢口白岩龍平、熊本白石卯一の信到る。

八月十五日 夜来大雨。午後狩野、菊池、曾根原、松島、西本、井原、姚文藻等来訪。漢口山崎、白岩に発信す。夜横田の饗宴に杏花楼に赴く。九時帰る。

八月十六日 晴。午前六時半滬報館を出で、神戸丸に上る。井手、横田、岡、深澤、井原、島田、狩野、平岡、篠崎、篠原、那部、秦、土井、関、中知、水野、岡本、吉永等来り送る。九時半開船。

八月十七日 晴。午後二時五島を過ぐ。驟雨大至。夜七時半長崎検疫所前に達す。驟雨屡至る。

八月十八日 大雨。午前六時入港。税関の検査を受け、七時土佐屋に入る。上海井手、狩野、島田列並に岡幸七郎に発信。外に岡より依頼の六神丸を小包郵便にて岡純一、岡次郎の両氏に送る。山田、毛利、岡純一諸氏に発信。又た松倉、緒方、齊藤、米原、葉室に発信す。漢口東肥、商船会社、長安、龍、木村、古谷、松元等に発信す。午後熊本留守宅に電報す。熊本牛島、上田に発信。大阪毎日新聞社員岩田来訪。夜大坂朝日新聞社員来訪。山口武洪、丸山重俊を訪ひ、九時帰る。

八月十九日 晴。是日午前九時の汽車にて熊本に帰らんとす。早起、行李を戒む。八時土佐屋を出で停車場に至り乗車。午後三時鳥栖に達し換車、熊本に向ふ。六時半上熊本駅に達す。河口、牛島、上田、齊藤等来り迎ふ。夜緒方、橘、津野、上野、齊藤、牛島、上田、河口等来訪。

八月二十日 晴。午前藤本、井口、大江岳父来訪。午後白石卯一來訪。出でて徳久知事、内藤、山田、安達、毛利、大江、河口、上野、津野、柳原、武藤、井原、鳥居、井芹等を歴訪。夜松倉、莊村、田村来訪。

八月二十一日 晴。午前齊藤國男、平野某、山田珠一來訪。出でて橘三郎、緒方二三列を訪ひ、去て万町に至り、松倉、藤森列に会し、四時帰る。夜徳久知事来談。

八月二十二日 陰。午前井口、内藤儀十郎、勝木来訪。軍令部細谷大佐の信到る。夜牛島来訪。坂田長平来訪。

八月二十三日 晴。午前毛利、山田九郎、橘三郎来訪。海軍々令部細谷大佐の信到り上京を促す。細谷、根津、中島村井手宅、高道に復書す。平野、齊藤来訪。

八月二十四日 晴。岡崎唯雄、落合為誠、柳原又熊、山中新来訪。夜河口宅の招邀に赴く。中西筑水、渡辺軍医来訪。

八月二十五日 晴。午後雷雨。津野一雄、高道梅雄来訪。夜白石、緒方来談。

八月二十六日 晴。午前牛島貫吾、右田喜七郎、藤本親信、莊村秀雄、岳父並に河口介男来訪。上海岡幸七郎の信到る。牛莊深水十八、宝妻寿作、大阪橘三郎の信到る。廣岡理則来訪。

八月二十七日 晴。午前九時半の汽車にて宇土に赴く。住江常雄、志水茂次郎等と同車す。十時宇土に着し、細川子爵邸に至り、小林家従に面し、去て奥村宅に至り中食し、午後三時辞して城山の先塋並に法華寺の墓に展し、六時の汽車にて熊本に帰る。途中春日に松倉を訪ひ小談、帰宅。緒方二三来談。韓国葉室謙純の信到る。

八月二十八日 晴。午前河口介男、小笠原、齊藤来訪。四川井戸川大尉の書信を武昌河瀬儀太郎より転送し来る。海軍々令部細谷大佐より来信、本月十日迄に上京復命を促す。

八月二十九日 晴。緒方二三、浅井平吉、楊子荃、亀雄、西郷従徳の信到る。朝鮮葉室、武昌河瀬に復書す。午後津野、永原来訪。夜落合為誠を訪ふ。明日を以て鹿児島造士館に赴任するを以て也。津野を訪ふ、在らず。

八月三十日 雨。夜田中清司来宿。

八月三十一日 雨。午前多田亀毛来訪。緒方二三来訪。午後徳久知事を訪ひ、去て支那店に至り宮崎唯雄、緒方、藤本等に会し、晡時帰る。

九月一日 雨。午前井芹経平来訪、中食後去る。柳原又熊来訪。夜松倉来談。

九月二日 雨。天草山中新に吊状を發す。午後牛島、上田等を訪ひ、去て万町に至り緒方、宮崎等に会し帰る。上海井手、東京辻武雄の信到る。夜平山氏清来訪。

九月三日 晴。午前緒方二三来訪。東京細谷、辻、上海井手等に發信す。漢口山崎桂、片山敏、上海横田三郎、深澤暹、白岩龍平に發信す。夜津野一雄を訪ふ。緒方、齊藤、河口来訪。

九月四日 風大。松倉善家、田中清司に發信す。午後牛島吉郎、柳原又熊来訪。夜岡崎唯雄、松倉善家来訪。東肥洋行善後策に付き商量する所有り。十時辞帰。

九月五日 陰。米原繁蔵の信到る。午後塩屋町商業會議所に至り、緒方列に会す。五時帰る。

九月六日 晴。上海岡幸七郎、南潯中島美喜雄の信到る。天草田中清司の信到る。宮原義雄の信到る。

九月七日 風雨。午前山田珠一、柳原又熊来訪。午前内藤、大江に至り辞別。晚齊藤、牛島、上田、莊村、白石、内田を招き会食す。十時散ず。

九月八日 雨。午前支那留学生傳姓来訪。天草田中清司に金二十五円を郵送す。大坂末永一三の信到る。之に復す。上海菊池、漢口岡に發信、上京を報ず。宇土宮原に復書す。今夜啓程東京に赴かんとす。午後行李を戒む。大江岳父、内藤儀十郎氏来訪。井口、河口、牛島来訪。十一時家を出で池田駅に至り、同二十九分の汽車に上る。齊藤国雄、牛島吉郎、莊村秀雄、上田賢象、柳原又熊来り送る。上野と大牟田迄同車す。

九月九日 晴。午前七時門司に達す。直に馬関に渡り八時五分の山陽汽車に上る。三井洋行員中山某と同車す。福山を過ぐる時岡田晋太郎上車す。其母堂の訃に接し新に台北より帰來せる者也。夜十時大阪に達す。末永一三を江戸堀に訪ひ一泊す。是日朝來頭痛大に起り車中に困臥し苦悶殊に甚し。

九月十日 晴。午前橋三郎来訪。正午末永の案内にて北野の菱富に至り鰻を食す。晚又た末永の処に会食し、七時の新橋行汽車に梅田駅に乗ず。末永、橋来り送る。十時彦根を過ぐ。秋月一変、湖上の風色画よりも麗なり。

九月十一日 晴。午前富士を天半に望む。我名山に違ふ正に三年、今日忽ち此の巍然たる雄姿に対し心襟転た爽絶を覚ふ。午前十一時新橋に達す。上車佐々木方に投ず。田鍋安之助来訪。晚髪を理し帽を購ふ。是日静岡にて長岡子爵並に細川護立公子に邂逅す。夜坂口翁の病を隣室に訪ふ。

九月十二日 晴。午前海軍々令部に至り細谷局長、上村軍令部次長、伊東軍令部長、齊藤総務長官に面し、十一時去て同文会に根津を訪ひ、中食後久米、宮島、佐々宅を歴訪して帰る。不在中早川新次来訪。池邊、岡本、中西、久米、末永、熊本留守宅に發信す。四時岡本源次来訪、十時去る。早川新次来談。

九月十三日 晴。午前九時海軍々令部に出頭し細谷大佐に面し、第三局員一同に清国の形勢を講話す。

十二時去て同文会に至る。中島真雄、根津一、成田興作、柏原文太郎等に会し、午後二時近衛公を貴族員議長官舎に訪ひ、三時辞出。帰途同文書院に田鍋、水谷を訪ひ帰る。留守中佐々友房、池邊源太郎両氏来訪。夜中西正樹来り、十時帰る。是日海軍水交社幹事より来る十七日黄海々戦紀念会の招待を受く。明日佐々氏より観劇の案内有り。

九月十四日 陰天。午前八時半佐々氏を富士見町に訪ひ、十時共に出て、三崎町の劇場に至り観劇。守田愿来会。七時完る。諸氏に分れ帰寓。中島真雄来談。久米の信到る。

九月十五日 晴。大阪末永一三、古川権九郎の信到る。漢口片山敏彦に発信、其の領事館を辞し同文会に従事せん事を勧む。朝清浦司法を城山町に訪ひ、九時辞して同文会に松浦を訪ひ、去て参謀本部に至り青木宜純、小山秋作、木下宇三郎等に面し、十一時帰寓。岡本、木野村に発信す。早川新次、日本新聞社横矢重道、亀雄等来訪。木野村の信到る。

九月十六日 微雨。朝出て柏原、古川、中西、古莊嘉門、國友等を歴訪し、小石川茗荷谷有斐学舎に岡本源次を訪ひ、中食の饗を受け、午後二時辞して中島真雄を三浦中将宅に訪ひ、去て守田愿を敲き帰る。夜橋三郎、中西正樹、古川権九郎、田鍋安之助、池邊吉太郎、亀雄、宇野海作、小山内精一郎等来訪。中西、池辺、古川、田鍋を留て晩食を共にす。留守中小越平陸来訪せりと云ふ。是日水交社幹事に致書し、明日黄海々戦紀念会の招待を辞す。

九月十七日 晴。午前松田満雄来訪、午後に至て去る。五時守田愿、中島真雄、岩田衛、山内喜志男来訪。守田、中島を留て晩食を共にす。長岡子爵に発信す。夜長岡子爵の信到る。

九月十八日 晴。小村俊三郎に発信す。午前出て池辺源太郎、善隣書院、伊集院、柴山矢八、佐々友房氏等を歴訪し、一時帰る。二時今戸に至り長岡子爵を訪ふ。支那茶二缶、点心二瓶を恵まる。三時半辞帰。不在中野間五造、橋三郎、高島義恭、津田静一氏等来訪せりと云ふ。細谷大佐より明後日晩餐の案内有り。夜根津一、水谷彬来談。

九月十九日 晴。細谷、守田に致書す。午前橋三郎、坂口直人、伊集院俊来訪。正午伊集院と上野精養軒に至り会食す。熊本留守宅、緒方二三、深水十八、高橋謙の信到る。佐々友房氏より晩餐の案内有り。同文会との先約有るを以て之を辞す。小山秋作、田鍋安之助、中島真雄来訪。雷雨大に到る。五時同文会の招邀に上野桜雲台（梅川楼）に赴く。根津、田鍋、中島、小山、松田、中西等来会。八時半席散ず。京都土屋員安の信到る。亀雄来訪。

九月二十日 晴。土曜日。宇野海作に発信す。朝熊谷直亮、小越平陸来訪。京都土屋、漢口片山に発信す。午後一時出て近衛公を貴族院議長官舎に訪ひ、去て錦織精之進を芝に敲き、転じて同文会に至り長岡、根津、柏原、田鍋、中西諸氏に会す。近衛公亦来会、小談、去て久米徳太郎を赤坂檜町に訪ひ、五時細谷大佐の招宴に永田町に赴く。安原大佐、伊集院俊、久米某等来会。九時辞帰。

九月二十一日 晴。日曜日。詰朝宮島大八来訪。午前田鍋、中島亦来会。四人車を連て本庄亀井戸の萩寺に至り萩花を賞し、去て鯨屋に上り中食し、盤桓多時亀戸天神の祠に謁す。規模北野の菅祠に伯仲す。藤花を以て名有り。午後向島の百草園に至り園内を徜徉す。秋花百様叢然堆を為し、紅黄白紫夕陽と相映じ、秋色十分陽春の景致も及ぶ能はず。花間の小径を散歩し、一茶店に投じ休憩す。園の主人宮島と善し優待至らざる無し。是日天気放晴、秋風水の如く襟懷爽然。園内土女如雲。五時墨堤を漫歩し帰途に就く。余是の路を踏まざる茲に十三年、今昔を俯仰し多少の感無き能はず。吾妻橋畔にて一行に分れ車を駈て帰る。片山次彦、亀雄来訪。根津、小山に発信す。

九月二十二日 雨。午前海軍々令部に至り上村次長、細谷大佐等に会し、商量時を移し十二時辞し帰る。小村俊三郎来訪。岡本源次の信到る。岡本、葉室、井手並に熊本留守宅に発信す。岡次郎来訪、之を留て晩餐を共にす。池邊吉太郎より明日八百膳に招邀の事を伝ふ。伊澤修二来訪。

九月二十三日 陰。午前橋三郎、千田一郎来訪。小村俊三郎の信到る。小村に復書す。午後平川町三橋に至り伊集院俊を訪ひ、去て善隣書院に小越平陸を敲き、転じて参謀本部に小山秋作を訪ひ、談話

時を移し近衛公を議長官舎に訪ひ、三時半帰る。蓑田善太郎来り、細川護立公子より支那談の要求有りしも、時日に先約有るを以て之を辞す。林市蔵、池邊吉太郎来訪。五時池邊の招邀に浅草山谷八百膳に赴く。都門第一の割烹店なり。横浜裁判所検事正小林芳郎、水間大蔵参事官来会。十時席散ず。京都齊藤の信到る。

九月二十四日 微雨。朝今田主税、辻武雄来訪。九時小石川に至り宇野海作、小山内精一郎を訪ひ、去て有斐齋に岡本を訪ひ小談、転じて牛込に至り古川、林市蔵、熊谷等を歴訪し、木野村政徳に抵る。洋食の饗を受け、去て池邊吉太郎を谷町に訪ふ。遂に其住所を得ず。佐々友房氏に至り別を叙し、転じて蓑田喜太郎、高島義恭を訪ひ、伊澤修二を敲き帰る。午後三時半小村外務大臣を官邸に訪ひ、談話時を移し、辞して小村俊三郎を有信館に訪ひ、五時半錦織精之進の招宴に赴き、八時半帰る。留守中小越平陸、中島真雄等来訪せりと云ふ。齊藤國男の信到る。池邊に発信。

九月二十五日 晴。熊本留守宅、山田珠一、緒方二三の信到る。岡幸七郎に返信す。中島真雄来訪。京都土屋員安に致書す。午前同文会に根津、柏原、成田列を訪ひ、去て軍令部に至る。熊本往復旅費七十円を受取る。熊谷直亮の信到る。三時長岡子爵の招筵に今戸の邸に赴く。饗応特に到る。南清游草一冊を贈らる。八時退出。齊藤國男の信到る。

九月二十六日 雨。朝田鍋安之助来訪。九時辻武雄を西片町に訪ふ。酒肴を具して歓待す。帰途橋を訪ひ帰る。中西正樹来訪、中食後去る。古川権九郎、熊谷直亮来訪、共に出来て晚餐す。八時帰る。岩田衛、平野某、片山次彦、亀雄来訪。宇野海作の信到る。早川新次来訪。其の安徽に赴くを以て上海井手に添書す。木野村の信到る。

九月二十七日 雨天。早朝京都土屋に電報し、本夕六時出発を報ず。深水清、中島真雄来訪。是日午後六時五分新橋発汽車にて西下せんとす。中島真雄京都迄同行たり。根津一来送。

九月二十八日 雨。午前九時京都七条着、土屋員安の使者来迎、直に新烏丸頭町の土屋宅に至る。土屋喜迎。午後三時土屋と雨を衝き乗車二条停車場に至り、嵐山行の汽車に乗ず。渡月橋畔にて舟を艫し、桂川を遡り行く四丁許、嵐峽館に投ず。温泉に一浴、桂水の鮮を割き飲む。風雨満山、嵐峽の風色極て佳絶たり。館桂水の浜に臨み、積翠万重屋を押し、幽邃清雅人をして羽化の思有らしむ。日暮舟に駕し桂水を下る。風雨大に起り、衣袂尽く沾ふ。渡月橋畔に至り車を求むれども得ず。已むを得ず舟子をして両車を賃し、之を拉せしめ停車場に至り、七時二十分汽車にて二条に着し土屋宅に帰り、談話深更に及で寝に就く。

九月二十九日 晴。是日早朝西下せんとす。土屋苦留、其の主裁せる第一中学にて一場の談話を求て已まず。余中島と先約有るを以て之を辞し、八時別を告げ四条堺町の玉井に中島真雄を訪ひ小談、十時五分の汽車に乗ず。中島真雄来送。十二時半神戸に達し、馬関行の汽車に換坐す。

九月三十日 晴。午前五時馬関に達す。直に門司に渡り六時の汽車に坐し、十時鳥栖に達し、熊本行の汽車を待ち、十一時四十分乗車。午後三時熊本に帰る。鳥居、岡、長安、白岩、深水等の信に接す。岡より九月分同文会支部費七十元を送り来る。

十月一日 晴。稲田初太郎来訪。午前山田、緒方、松倉等を訪ひ、正午帰る。夜大江を訪ふ。

十月二日 雨。午前岳父並に柳原来訪。午後鳥居、津野、柳原宅を訪ふ。

十月三日 晴。田鍋、亀雄に致書し、別に志水、川野廉両家に吊状を發す。志水元吾、客月二十七日松橋にて病死せるを以てなり。宮原森雄、井芹経平来訪。夜松倉善家、緒方二三来訪。

十月四日 晴。午前山田珠一、岡崎唯雄等を訪ふ。岡崎、土屋、伊集院、錦織等に発信す。土屋に写真並に煙草を郵送す。

十月五日 晴。午前岡崎唯雄来訪。午後白石卯一來訪。上海白岩、東京近衛公に発信す。夜松倉を春日に訪ふ。

十月六日 米原、岡次郎、佐々木利助の信到る。米原に復書す。緒方二三、勝木恒喜来訪。平山氏清来

訪。長岡子爵、細谷資氏、根津一に発信す。

十月七日 晴。午前緒方二三来訪、共に出で古城貞吉宅を訪ひ、其巖君の死を吊す。午後緒方又来訪、出で阿部野利恭を訪ひ、日暮帰る。上海井手の信到る。古城に吊状を發し、別に細谷に致書し阿部野の事を依頼す。夜白石、河口来訪。

十月八日 晴。片山哲哉氏の信到る。午前大江岳父来宅せらる。午後郵便局に至り、九月分同文会手当七十円を受取る。東京佐々、池邊、岡次郎、漢口岡幸七、御船片山哲哉氏等に発信す。

十月九日 晴。午前万町に至り、緒方、藤森等に会す。午後四時帰る。留守中千田一十郎来訪せりと云ふ。晩大江の招邀に赴く。松倉善家の信到る。

十月十日 晴。京都土屋員安の信到る。緒方二三来訪。午後千田一十郎来訪。日暮柳原又熊来談。河口介男来訪。

十月十一日 陰。上海井手、東京細谷、根津、緒方等に致書す。田鍋安之助の信到る。阿部野利恭来訪。千田一十郎渡清に付き上海白岩、篠原、杭州河野、大河平、蘇州二口、村山、海津、漢口山崎、岡、浅井等に添書す。山田珠一より其家君死去の訃報至る。夜河口氏と出で銃獵用品を購ふ。漢口片山敏彦の信到る。

十月十二日 陰。午前山田珠一を訪ひ、其父の死を唁す。午後池内源七来訪。四時山田の葬儀に莊嚴寺に臨む。手島精三来訪。

十月十三日 雨。東京熊谷直亮、古川権九郎に発信す。緒方二三来訪。東京細谷資氏、古城貞吉、漢口岡幸七郎、東京同仁会の信到る。

十月十四日 晴。午前莊村秀雄来訪。午後出で千田一十郎を訪ひ、前日書はる所の清国各地の友人に宛てたる添書を交付す。山田珠一、阿部野利恭を訪ひ、阿部野と出で緒方を本莊に訪ふ、在らず。

十月十五日 陰。九時半家族を携へ住吉に遊ばんとし乗車、春日駅に至る。雨に遇ふて折返す。東京松倉の信到る。緒方、尾越を訪ふ。

十月十六日 快晴。朝細谷大佐の信到る。午後九時家族を伴ひ熊本駅より上車、住吉に遊ぶ。是日秋空寥廓水天如洗、住吉祠辺に盤桓し、眺望時を移し、日の西山に口くを覚へず。余少時父に陪して此地に遊ぶ。指を屈すれば鳥兎匆匆に二十二年矣。往時を追懐すれば恰も隔世の感有り。午後五時三十九分上り列車に乗り、上燈の候熊本に帰る。細谷大佐に復書す。

十月十七日 晴。是日黎明河口、内田と中島新地に獵す。余鴨七羽を獲、午後五時帰る。留守中武藤、柳原来訪。

十月十八日 晴。緒方二三来訪。午後柳原又熊来訪。晩河口、内田と会食す。

十月十九日 晴。日曜日。午前四時内田、河口と中島新地に獵す。鴨八羽、鶉一羽、鷺一羽を獲。帰途井手宅に晩食し、八時帰る。緒方二三の信到る。

十月二十日 晴。多田、緒方来訪。緒方に復書す。夜緒方来訪。東京熊谷直亮の信到る。

十月二十一日 晴。尾越辰雄に発信す。軍令部細谷大佐に発信す。夜河口来談。

十月二十二日 晴。午後池内源七来訪。東京橋三郎に発信す。尾越辰雄の信並に朝鮮葉室より写真を送り来る。柳原来訪。

十月二十三日 晴。午前鎮西館、支那店を訪ひ、午後帰る。片山、白岩の信到る。

十月二十四日 雨。細谷大佐に柳原又熊の履歷書を郵送す。片山哲哉、根津一、小山秋作に発信す。齊藤國男、井手三郎に発信す。午後太田千尋を訪ひ、篠原、岡に致すの信を托す。太田は昨日出發、上海に赴く者なり。岡に雷管並に發火金を送る。是日定造する所の獵銃竣工す。漢口岡より同文会手当六十円を送り来る。

十月二十五日 晴。朝小越平陸来訪。午前共に出で水前寺に至り、水明樓に中食し、帰途万町に至り緒方、藤森等に会す。松倉亦来る。本日東京より帰来せりと云ふ。夜園田郭六、柳原又熊、河口、内田

来訪。小越平陸終列車にて長崎に向ふ。鑛山技師と共に一年間四川地方の鑛山を探查する者なり。

十月二十六日 晴。日曜日。午前四時半河口、内田の両戚と画図地方より川尻に向はんとす。河口事故の爲め画図にて分れ、余輩川尻より中島新地向ふ。一も獲る所無し。日暮帰る。疲労殊に甚し。軍令部伊集院俊、片山哲哉、亀雄の信到る。

十月二十七日 半晴。伊集院、亀雄に復書す。廣岡理則に発信す。農学校校長河村九淵、園田郭六、勝木恒喜来訪。海軍々令部より十一、十二、一、三ヶ月分手当四百円送り来る。軍令部加藤副官に領収証を發す。井手三郎の信到る。

十月二十八日 陰。午前肥後銀行に至り軍令部よりの送金四百円を受取り、又た預金中の四百円を受取り、去て万町に至り、午後九日社に山田珠一を訪ひ前貸の三百に四百を加へ金計七百を預け、帰途第九支店に預金して帰る。河口、内田、松岡威稜□等来訪。

十月二十九日 雨。東京橋三郎の信到る。

十月三十日 陰。朝中村六蔵、勝木恒喜来訪。晌午建軍、新山地方より画図に獵す。獲る所無し。池上辰雄の信到る。緒方、柳原等来訪。

十月三十一日 陰。夜雨。

十一月一日 雨。午前中村六蔵、井口忠来訪。郵便局に至り漢口送來の金六十円を受取り、帰途髪を理して帰る。

十一月二日 雨。日曜日。午前三時半起床。九時出て、熊本駅に至り上車、松橋に至り塩浜に獵す。田畑宅にて中食し、夜に入て帰る。鴨六羽を獲たり。緒方、阿部野、柳原等来訪せりと云ふ。

十一月三日 半晴。天長節。午前緒方、石田龍象来訪。晚大江の招邀に赴く。留守中河村九淵、平山氏清等来訪せりと云ふ。

十一月四日 晴。午前井口忠、河村九淵来訪。長崎井手の信到る。本夕熊本に着すと云ふ。午後春日に至り松倉を訪ひ、去て井手を迎ふ。

十一月五日 晴。午後高宮、不破来訪。家族と竜田山に遊ぶ。根津一の信到る。

十一月六日 晴。梶原保人、柳原又熊来訪。午後保田窪に獵す。小鳥一羽を獲。

十一月七日 晴。午前五時竜田山の太音谷に獵す。小鳥一羽を獲、正午帰る。東京橋三郎、河内米原繁蔵の信到る。松倉、勝木来訪。同文会成田に発信す。

十一月八日 晴。柳原、甲斐敬吉来訪。午後松倉を訪ひ、帰途佐々友房氏を広丁に訪ふて帰る。

十一月九日 晴。午前四時井口、吉田、内田列と西山東門寺附近に獵す。小鳥十羽を獲、七時帰る。留守中井手三郎、緒方二三等来訪せりと云ふ。小山秋作の信到る。本日大演習に付き来熊せる者なり。

十一月十日 晴。午前小山を師範学校に訪ふ。清国の大演習陪觀員北洋派遣の副将張永成、同教練處提調副将李純、北洋留学生監督趙理恭、知府張懷芝等に面し、出て清浦司法大臣を唐人町に、柴山中将を小沢町に訪ひ帰る。井口来訪。是日午後四時五十五分天皇陛下大演習統監の爲め春日駅に御着輦有り。上海篠崎都香佐に発信す。

十一月十一日 晴。

十一月十二日 晴。午後池邊吉太郎、橋三郎、佐々友房氏等来訪。夜佐々氏を訪ふ、在らず。去て樺山大将を米屋町西岡方に訪ひ、談話時を移し、去て伊東海軍軍令部長を紺屋横町光島方に訪ふ。佐々木大尉亦た在り。八時半辭して乃木中将を新町に訪ふ、已に寝す。名刺を留め、帰途池辺を一訪して帰る。留守中小山秋作来訪せりと云ふ。

十一月十三日 微雨。午前佐野直喜来訪。成田與作、亀雄の信到る。晚橋三郎、池邊吉太郎、佐野直喜を招き会食す。

十一月十四日 陰。夜佐野、佐々二氏を訪ひ、去て師範学校小山を訪ひ、湖北派遣の觀操武官黃忠浩に面し、九時帰る。

十一月十五日 晴。午前八時天皇陛下熊本御發輦あり。九時支那店に至り岡崎、緒方、橘等に会し商量し、帰途漢口送來の同文会十一月分手当六十円を郵便局より受取て帰る。橘三郎來別、本日出發渡清すと云ふ。漢口岡幸七郎致すの書信を託す。朝鮮葉室並に井手に発信す。夜柳原又熊、池邊吉太郎來訪。

十一月十六日 日曜日。午前四時内田、河口の両戚と西山の樟溪に獵す。鳩一、小鳥二を獲、五時半帰る。

十一月十七日 晴。午前甲斐敬吉、牛島貫吾、井手三郎來訪。上海篠原の信到る。

十一月十八日 微雨。午前阿部野、井口來訪。中食後兩人と寺原田畑に獵す。鴨二羽を獲。夜阿部野と佐々氏を訪ふ、在らず。

十一月十九日 半晴。岡幸七郎の信到る。亀雄に復書す。

十一月二十日 晴。午前五時春日に到り一番汽車に乗じ宇土山に獵す。五時帰る。鳩二羽、小鳥七羽を獲。

十一月二十一日 雨。午前岡崎唯雄來訪。其依頼により松倉善家に発信す。十時佐々友房氏の帰京を池田駅に送る。住田昇來訪。晚中村六蔵、阿部野利恭を招き会食す。緒方、井口亦來会。

十一月二十二日 晴。中村六蔵、安達謙造、柳原又熊來訪。東京細谷大佐、松倉善家に致書す。午後中村氏の東道にて竜田山の獵区を視察す。小鳥二羽を獲、夜に入て帰る。井口來訪。

十一月二十三日 晴。午前二時半内田友義と徒歩宇土に赴き江入附近に獵し、午後七時帰る。小鳥七羽を獲。齊藤国雄の信到る。

十一月二十四日 晴。午後奥村傳氏來訪。

十一月二十五日 晴。山田珠一、津野一雄、河口介男來訪。松倉に発信す。

十一月二十六日 晴。勝木、井口來訪。大坂末永一三に発信す。日奈久井手三郎、東京田鍋安之助の信到る。

十一月二十七日 雨。午前五時發井口と黒石より梶尾地方に獵す。終日雨に遇ひ全身皆濡ふ。五時帰る。小鳥五羽を獲。

十一月二十八日 晴。田鍋、井手に復書す。東京細谷、松倉の信到る。正午家を携へ宇土に赴く。食後西岡神社に展す。大祭の故を以て雑踏殊に甚し。帰途城山の先塋に謁し帰る。余郷を出て、より郷社の祭を見ざる茲に十九年、幾ど隔世の感有り。午後六時の汽車にて熊本に帰る。

十一月二十九日 晴。松倉善家の家嚴死去の訃に接す。午後行て吊す。

十一月三十日 晴。日曜日。午前五時より内田、井口と梶尾に獵す。小鳥六羽を獲、二時帰る。四時松倉の葬を送る。

十二月一日 晴。阿部野來訪。晚大江を訪ふ。

十二月二日 朝微雨、午後晴。松倉を訪ふ。

十二月三日 梶尾に獵す。小鳥五羽を獲。

十二月四日 晴。東京細谷資氏に張家口製造所設立の件を報じ、天津白須に柳原の事を依托す。柳原來訪。亀雄、緒方の信到る。

十二月五日 晴。

十二月六日 陰。保田窪に獵す。大雨に遇ひ全身皆濡ふ。直に帰る。

十二月七日 晴。藤崎宮祭日たり。

十二月八日 陰。四時半より西山一帯に獵す。兎一頭、小鳥六羽を獲、五時半帰る。井手、橘、岡の信到る。

十二月九日 晴。朝井手三郎の上京を春日駅に送り、帰途松倉並に支那店を訪ひ、午後帰る。晚昨日獲る所の兎を割き中村六蔵、柳原又熊、井口忠、河口、内田諸人を招き会食す。

十二月十日 晴。福岡田鍋安之助の信到る。其母堂の逝去を報ず。
十二月十一日 雨。廣岡理則の信到る。牛島貫吾来訪。
十二月十二日 晴。松橋塩浜に猟す。鴨十二羽を獲、夜に入て帰る。
十二月十三日 雨。漢口岡より十二月分手当六十元を送来。井口来訪。東京福島安正、福岡田鍋安之助に送信、田鍋に奠儀若干を郵送す。
十二月十四日 雨。詰朝井口、河口、内田、山本列と木留に猟す。大雨屢ば至り衣袂皆濡ふ。鳩二羽を獲、七時帰る。
十二月十五日 陰。井口忠、柳原又熊、河村九淵来訪。独逸鳥居赫雄の信到る。
十二月十六日 晴。廣岡理則に復書す。牧山某、池内源七、井口忠来訪。
十二月十七日 晴。一番汽車より独り木留に出猟す。鳩一羽、深山鶴一羽、小鳥八羽を獲、四時半帰る。
十二月十八日 晴。田鍋、緒方、細谷の信到る。細谷に復書す。
十二月十九日 晴。
十二月二十日 晴。東京井手、福島 of 信到る。午後済々黌の奨学会に臨み一場の談話を為す。四時半帰る。留守中橋三郎、阿部野利恭、井口等来訪せりと云ふ。夜橋、井口来訪。上海、篠原の信到る。
十二月二十一日 陰。午前五時池田に至り井口と一番汽車に乗り宇土に猟す。雨に遇ふ。小鳥四羽を獲て四時半帰る。不在中柴田尚三郎来訪せりと云ふ。夜柳原又熊来訪。
十二月二十二日 晴。午前支那店に至り、去て松倉を訪ひ、帰途牛島、阿部野宅を訪ふて帰る。是日米穀取引所より新株券二十枚を受取り、池上と小談、帰る。東京熊谷、古川に発信す。井口来訪。
十二月二十三日 晴。午前阿部野来訪。午後井口忠、中島裁之来訪。上海篠原、漢口岡に復書す。夜大江を訪ふ。
十二月二十四日 陰。独逸鳥居赫雄に復書す。
十二月二十五日 雨。午前松橋に猟す。鴨二羽を獲、七時半帰る。不在中牛島、勝木、緒方等来訪。
十二月二十六日 陰。降霰。午後松倉、藤森、阿部野等来訪。夜大江岳父を請待す。神戸山内崑の信到る。「ハンケチ」を贈り来る。
十二月二十七日 晴。白岩、木内嘉種来訪。午後肥後銀行に至り預金を為し、去て支那店に緒方等に会し、帰途緒方の寓に小談、帰る。夜本田嘉種、田中警視来訪。
十二月二十八日 晴。午前六時半の汽車より植木に向ひ木留に猟す。小鳥二羽を獲、五時帰る。緒方の信到る。夜井口来訪。神戸山内崑、東京井手三郎に発信す。
十二月二十九日 晴。六時本妙寺山に猟す。小鳥十二羽を獲、五時帰る。
十二月三十日 陰。六時本妙寺天狗山に猟す。小鳥六羽を獲、五時帰る。夜牛島生来訪。
十二月三十一日 晴。米原繁蔵の信到る。銀行の件に付き二十六日大阪より帰郷せりと云ふ。勝木恒喜来訪。柳原又熊来訪。東京橋の信到。夜大江、河口を訪ひ、歳暮の礼を叙す。